

# 大正拾年度事業報告

鹿兒島縣水產試驗場

# 大正十年度鹿兒島縣水產試驗場事業報告

## 目次

### 漁撈部

鯉餌料鯉漁業試驗

趣旨、方法、經過成績

鮪延繩漁業試驗

趣旨、方法經過、成績

東隅海面漁業試驗

趣旨、經過成績

小型發動船漁業試驗

鯖釣漁業試驗、(附)鯖調查

旗魚延繩漁業試驗

瀬魚延繩漁業試驗

傳書鳩利用試驗

趣旨、鳩舍、飼育訓練、經過、使用成績

### 製造部

鯉節製造試驗……………五

削仕上卜荒節仕上ノ比較、共同製造

鹿尾菜製造試驗……………六

布糊製造試驗……………六

腰手、漂白、赤錆、防滅、用酸、軟化……………七

鱈利用試驗……………七

養殖部……………八

公魚移殖試驗……………八

海蘿蕃殖試驗……………八

海苔養殖試驗……………八

調查部……………八

海洋調查……………三

開聞岬屋久島間横斷觀測

鹿兒島灣定點觀測  
八代海面觀測

講習指導……………二九

鯉節製造講習、鯉節製造場改築指導、布海苔製造指導、漁船發動機關士養成講習、

發動機二等機關士試驗

# 大正十年度鹿兒島縣水產試驗場事業報告

## 漁撈部

### 鯉餌料鯷漁業試驗

試驗趣旨 發動機船ニヨル鯉漁業ノ進歩ハ帆船時代ノ操業ニ比シ著シク規模ト漁場ノ範圍ヲ擴大シ之ニ要スル餌量モ俄カニ増加シ常ニ供給不足ヲ來シ少カラズ本漁業ノ基調ヲ不安ナラシムルヲ以テ之ガ供給ノ圓滑ヲ計リ餌漁業ノ獨立ヲ圖ルト共ニ新漁場開發ノ緊要タルヲ認メ大正元年以來餌鯷漁業試驗ヲ開始シ同三年以來改良揚繰網ヲ用ヒ新漁場ノ開發ヲ試驗シ既ニ片浦灣出水郡沿海ノ漁場開發ニ貢獻シ鹿兒島灣内ノ同漁業モ逐年揚繰網ニヨル漁法ニ改マリ山川附近ニテ本年度ハ八張使用セラレ在來八田網ニ比シ優良ナル成績ヲ示セリ從ツテ大正六年以來春季ハ企業促進ニ便ナルタメ當業者ト提携實與試驗トシ漁船漁夫ハ被貸與者ヨリ提供セシメ山川港附近ニ從漁シ夏季ハ櫻島北部ニ於テ大正八年以來共同試驗ノ方法ニヨリ本網ノ適否ヲ試驗シタル結果夏季ハ水溫高騰シ魚群ノ沈栖甚ダシク本網ノ張下三十五尋乃至四拾尋深ニ達スルニアラザレバ漁獲困難ナルヲ認メ如斯ハ現在揚繰網ノ漁法トシテハ至難ナルヲ以テ本年ハ春季實與試驗ノミ施行セリ

試驗方法 使用ノ揚繰網ハ全部十八節乃至二十三節ノモノニテ魚取部三十八反翼網部三十七反トシ浮子方全長百五十五尋沈子方百七十七尋トシ夜間集魚燈ニヨリ集魚網獲シ月明時集魚燈ニ由ル漁獲困難ナル場合ハ晝間覗水器ニヨリ海底ニ潜伏セル魚群ヲ搜索圍繞ス

漁船ハ網船二隻手船二隻籠船一艘ヲ用ヒ漁夫四拾名ヲ要ス

試驗經過 成績試驗ハ拾年四月四日諸準備ヲ終ヘ根據地山川港ヨリ肝屬沿岸大根占沖合ニ出漁シ「タレクテ」拾壹籠

ヲ漁獲シ既ニ同方南漁況好順ナルヲ認メタレバ引續キ同月九日迄前後二回出漁シ同十二日知林島ヨリ内灣ニ於ケル漁

況探明ノタメ田貫沖ニ試漁シタルモ漁獲ナク再ビ肝屬沿岸ニ三回出漁シ十四日一回ノ漁獲アリ更ニ十六日揖宿沿岸ニ

テ試驗シタルモ漁獲ヲ見ズ其後肝屬揖宿兩郡沿岸ニ出漁二十數回出漁シ六月拾九日迄總數七十七日間從漁シ餌鱸百二

十一籠其他雜魚ヲ合シ價格壹千百六拾六圓ヲ得タリ前年ニ比スレバ四拾五籠參千七百六拾九圓ヲ減収セルモ是ハ期間

中屢々漁夫ノ欠員ヲ生シ作業圓滑ヲ欠ギタルト當時鱈漁況不振ニシテ長期蓄養セルタメ歩耗ヲ生シ餌價低落セルニ因

レリ

### 鱈餌鱸揚繰網漁業表 大正十年

月日	天候	漁場 符號	漁具 使用時	回数	表面 水温	同比重	潮速	水深	種類	數量	價格	備註
四月四日	晴		イ 自前 至ク 三、〇〇〇	一					タレクテ	二	二七五、〇〇	前八時鹿兒島發后七、〇〇山川ヲ經九、〇〇大根占沖出漁
五日	晴		イ 自前 至ク 九、〇〇〇	一					タレクテ	二	二七五、〇〇	火付真好マイワシ少許混入ス后〇、三〇山川ニ漁獲物賣却五、二三大根占沖着
六日	晴		ロ 自前 至ク 八、〇〇〇	一					同	八		火付前夜ニ劣ル正午山川ニ入り天候不其ノ様アリ休泊
七日												荒天山川、溝口休泊
八日												后四、三〇滿日發大根占貝倉沖ニ出漁
九日	晴雨											火付真好漁獲多カリシモ籠不足ノタメ籠舟ニ死魚トシテ積込ミ賣却ス后〇、三〇知林濱ニテ網干チナス
十日	晴		ハ 自前 至ク 七、四〇〇		一七、二	〇、九七〇			同	二	三六四、〇〇	雨天休泊
十一日	雨											

鯉餌料飼流業試験

自二十三日至二十七日	二十二日	二十一日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日
	晴西		曇東々南	晴南東	晴曇北	曇南	曇東				
	オ	ル	ヌ	ヌ	リ	チ	ト		ホ	ニ	
至前	至前	自ク	至前	至前	至前	至前	至前	至前	至前	至前	至前
四、二〇〇	四、二〇〇	一〇、〇〇〇	七、三〇〇	四、三〇〇	六、四〇〇	七、三〇〇	七、二〇〇	五、〇〇〇	八、〇〇〇	一、〇〇〇	
		ニ	一	一	一	一	一				
三〇、〇〇〇			二九、三〇〇	二九、四〇〇	二九、八〇〇	二九、八〇〇	二九、〇〇〇				
三三			三〇〇	三三三	三三三	三三三	三三七				
北急			西北緩々	不明	南緩	北四緩	北緩				
二四			三	三	二	二	二				
	タレクナ			タレクナ					同		
		四								七	

喜入村鈴沖ニ從流セシモ火付不長使網セス

神ノ川沖從流火付不長使網セス

神ノ川沖從流

神ノ川貝倉沖從流火付不長使網セス

多良曾根從流火付不長消火后小體群ヲ認メ晝

張セルモ大群ニテ圍繞スルヲ得フ、ノ、多シ

下層 十尋 水温一九、〇 比重二五七〇

二十五尋 水温一八、七 比重二五八二

二十四尋 水温一八、五 比重二六三〇

知林沖從流火付ヲ見タルモ沈溺セルタメ流獲

ナシイカノ火付ヲ見タリ

下層 十尋 水温一九、五 十四尋 一九、五

前夜ト同一狀況ニテ流獲ナシ

下層 十尋 水温一九、四 比重二六七五

二十四尋 水温一九、〇 比重二六五五

神ノ川沖從流イカ刀魚ノ混獲アリ

下層 十尋 水温一九、四 比重二五六一

二十五尋 水温一八、五 比重二五九三

火付ヲ見タルモ漁獲ナシ、ノ、多シ

下層 十尋 水温一九、四 比重二五八八

二十五尋 水温一九、〇 比重二六〇六

神ノ川沖盤張チナシ体長一寸四分位ナルタメ

網目ヨリ逃シタルモノ約同量以上ナリシ

多良沖潮急ニシテ火付不長使網スルニ至ラス

下層 十三尋 水温一九、九 比重二五六一

二十五尋 水温一九、三 比重二五八三

月明時休漁

二十八日	二十九日	三十日	一月五日	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	自十三日	十四日	十五日
晴曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇	晴無風		曇雨		晴		曇	曇
北四			南三		北東一				東二		北東一		北西二	西二
ワ			カ		ヨ		レ		ソ		ツ		ホ	ナ
自后			自后		自前		自前		自前		自前		自前	自前
八、〇〇			七、五〇		二、二五		〇、〇〇		二、〇〇		二、四〇		二、二〇	二、三〇
二、〇〇			〇、二〇		五、一〇		五、二〇		七、二〇		五、一〇		五、二五	五、一〇
二、五			三、八		三、〇		三、〇		三、四		三、三		三、五	三、三
三、三			三、七		三、九		三、七		三、六		三、六		三、六	三、四
南西			北急		南東		南		西		北		北	南
緩			急		緩		緩		緩		緩		緩	緩
一八			三		同		七		七		元		四	四
イ			ウ		ウ		イ		イ		ウ		ウ	ウ
ワ			レ		レ		レ		レ		レ		レ	レ
ク			ク		ク		ク		ク		ク		ク	ク
メ			メ		メ		メ		メ		メ		メ	メ
シ			シ		シ		シ		シ		シ		シ	シ
少			少		少		少		少		少		少	少

瀬崎沖從漁船ノ火付多カリシモ漁夫不足ノタ  
 メ使網不完全ニテ漁獲ナシ  
 下層十尋水溫二一、五比重二六四八  
 二十九日前一、〇〇点火セシモ火付不真強東  
 風トナリ休流  
 休神川沖火付不真ニ了ル  
 下層十尋水溫二一、五 比重二五七七  
 十五尋クク 二一、六クク 二五七〇  
 魚群沈酒セルト潮猶急ニシテ使網不完全ニテ  
 漁獲ナシ  
 神川沖從漁  
 下層十尋 水溫二一、一 比重二五七五  
 十五尋クク 二一、〇クク 二六〇五  
 二十五尋クク 二〇、八クク 二五九五  
 太良沖從漁  
 火付可ナリシモ淺海ニテ使網困難トナリ漁獲  
 ナシ  
 荒天休流  
 知林島北西從漁網一尾漁獲ス  
 下層十尋 水溫二〇、四 比重二五八八  
 十五尋クク 二〇、一クク 二六〇五  
 荒天休流  
 火付可ナリシモ夜明トナリ不漁トナル  
 下層十尋 水溫二一、五 比重二五六〇  
 十五尋クク 二一、〇クク 二五五〇  
 二十尋クク 二〇、八クク 二五八〇〇  
 不漁ノタメ休流  
 太良沖火付可ナリシモ使網不完全ノタメ漁獲  
 少カリシ  
 火付モ良好ナラス急潮ノタメ漁獲少シ  
 下層十尋 水溫二〇、五 比重二五九四

# 鯧揚繰網漁場圖

大正十年度



使網位置ヲ示ス  
 春季貸與試驗





## 鮪延繩漁業試驗

**試驗趣旨** 種子島東南海ニ於ケル鮪延繩漁業ハ明治四十四年ヨリ試驗ヲ施行シ逐年漁業ノ價值ヲ究明スルト共ニ民間從漁船増加シ大正四、五年頃迄ハ川邊郡鯉漁船ノ多クハ冬閑利用トシテ從事セシモ此後鯉漁期延長シタルタメ減シ之ニ代ルニ小型發動船ニ由リテ從漁スルモノ多ク本年十五六隻トナリ其他縣外漁船ヲ併セテ二十五六隻ノ從業ヲ見ルニ至リ漁場モ漸次沖合ニ擴張セラル、ニ至リタリト雖モ猶種子島東南海三十哩ノ範圍ヲ超ヘズ極メテ狹キ區域ニ限ラレ居ルヲ以テ出來ル丈ク現在漁場範圍ヲ擴大シ全ク新ナル方面ニ漁場ヲ求ムルヲ目的トシ試驗ヲ續行シツ、アリ

**試驗經過** 試驗船ハ竹島丸(十九噸三十馬力)ニ船長以下十二名外ニ主任者壹名乘組漁具ハ一鉢二百四十尋技繩九本付ノモノ三十二鉢ヲ準備シ昨年同様ワイヤヲモ使用セリ、大正十年十一月十日鹿兒島港ヲ出帆シ船體修繕ノタメ山川港ニテ拾數日ヲ費シ漸ク拾壹月二十四日新漁場開發ノ目的ニテ屋久島南方會根沖合ニ出漁シタルモ機關故障ヲ生シ引續キ從漁不能ニ歸シタルヲ以テ鹿兒島港ニ歸着シ爾后約壹ヶ月間空シク出漁ノ機會ヲ失シ十二月二十五日以降專ラ種子島熊野浦ヲ根據トシ其東南海面ニテ二月二十三日試驗終了迄前後拾航海鮪縫合セテ貳拾貳尾價格貳百八十二圓九十九錢ヲ得タリ而シテ前年來着手セル大島郡漁場ヘノ出漁ハ種子島漁場引揚後再度船體修理ノ故障ヲ生シ遂ニ機ヲ失シタルヲ以テ中止セリ

**試驗成績** 種子島東南海漁場ノ延長トモ認ムベキ屋久島南會根漁場ノ探求ハ多年ノ懸案タルノミナラズ近時發達セル小型發動機漁船ノ勃興ニ伴ヒ勢ヒ新漁場探求ニヨル操業範圍ノ擴大ヲ圖ルノ必要ヲ認メ比較的天候靜穩ナル晩秋ヲ選ビ目的ノ遂行ニ努メタルモ試驗船ノ故障ニヨリ僅カニ十一月二十四日豫定ノ漁場ニ試驗シタルモ投繩後ノ潮流豫期ニ反シ南向シタル爲メ漁礁ヲ離レタルト加フルニ河豚害ニヨリ裝餌ノ套收セラル、モノ多ク結果ハ遂ニ壹尾ノ漁獲ダ

ニナク終漁時夜ニ入りタルヲ以テ其ノ儘漁場ニ漂流シ翠二十五日更ニ潮流北東向ノ範圍ニ移リテ礁上ヲ西ヨリ投繩セ  
 ント企劃シタルモ眞夜ニ及ビ俄然天候惡變シ風波驟來シテ操業危險ナルニ至リタレバ同日午後三時屋久島麥生へ假泊  
 セリ更ニ種子島方面初漁ノ探信ヲナサントセシモ會々機關ニ故障アリ氣笛再鑿ノ必要ヲ生シ同月三十日鷹島ニ歸着シ  
 此レガ修理ニ費ケ月ヲ要シタルタメ屋久會棧出漁ノ機會ヲ失シタリ越ヘテ十二月二十五日以後一ニ熊野浦ヲ根據トシ  
 東南海漁場探求ニ從事シタルモ再ビ機關ニ故障ヲ起シ操業意ニ任ゼス僅カニ二回出漁ヲ得タルノミニテ越年スルニ至  
 リ一月ニ入りテハ例年ノ如ク荒天多ク僅カニ六航海ヲナシタルモ沿岸低温水滯瀾漫甚ダシク沖合二十浬以上ニ及ビ海  
 水濁濁シ從ツテ水溫ノ分布復雜ヲ極メ一月十二日觀測セル處ニヨレバ根據地熊野浦正東五浬ノ點ニ於テ一九、五度十  
 一浬ニ於テ二十度二拾七浬ニテ再ビ十九度ニ降下シ更ニ西南西六浬ニシテ二十度ノ水溫ヲ得テ試驗シタルカ如ク好潮  
 流トモ認ムベキ北東流緩ニシテ東又ハ南東ニ急ナルガ如ク例年ニナキ變調ヲ見漁況不振ニ陥リ加フルニ秋刀魚豚族  
 群游多ク裝餌ヲ奪ハル、等漁獲充分ナラズ二月ニ入ルモ俄然潮流恢復セザルモ上旬油津沖合ニ好漁ヲ傳ヘテヨリ種子  
 島沖合モ中旬以降黃肌(トンボ)ノ漁獲アリ漁況稍々進展ノ兆アリシモ僅カニ一航海十尾内外ノ漁事ヲ見タルマ、再ビ  
 不振ノ裡ニ終漁スルニ至レリ而シテ民間小型發動船ハ一月以降鮪繩ヲ中止シ瀬漁延繩漁ニ移リ幸ニ漁獲多クシテ漸ク  
 其ノ形勢ヲ挽回スルヲ得タルモノ多カリシ

### 鮪延繩漁業表

大正十年度 竹島丸

月 日	十一月 十一日	天候	風向	力	符號	漁場	漁具使用時	漁具使用	水溫	比重	流速	餌料	漁獲	種類	數量	平均重量	價額	記	事
自	十一月 十一日	風	西北															后二時四十五分鹿兒島港發 后七時十分山川入港 船体修理並ニ荒天ノ爲メ山川溜泊	



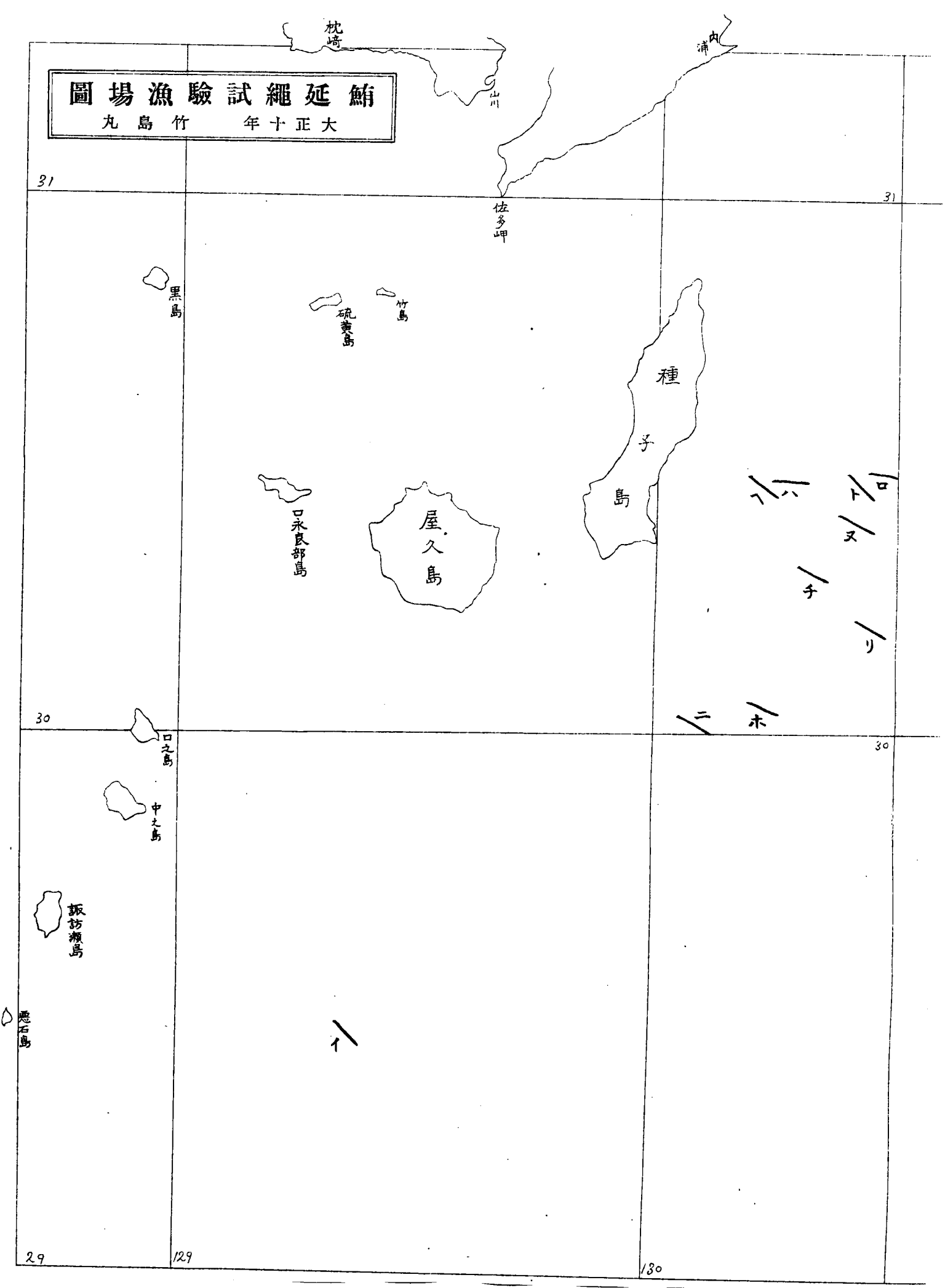
贈延繩漁業試驗

二十七日	晴南一	一	自二十九日 至一月一日	晴	北四	自前十一時 至后八時三十分	二五	一九四	二六〇	北微東	イロシ	鏡	二	六三〇	出漁セルモ途中機關故障ヲ生シ引キ歸ス 前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 港着
二十八日	雨東南二	二	自二十二日 至二十四日	曇	東北一	自正午 至后六時三十分	二五	一九八	二五三	東	イロシ	鏡	一	二七〇	山川休泊 前八時三十分山川港發后三時三十分四ノ 表避難ス
二十九日	晴北四	五	自十九日 至二十日	晴	西六	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
三十日	晴北四	三	自十三日 至二十日	晴	西六	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
三十一日	雨西六	二	自十一日 至十二日	晴	西六	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
十二月	晴西六	二	自十一日 至十二日	晴	西六	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
二十一日	曇東北一	一	自十一日 至十二日	曇	東北一	自正午 至后六時三十分	二五	一九八	二五三	東	イロシ	鏡	一	二七〇	前八時三十分山川港發后三時三十分四ノ 表避難ス
二十二日	晴北二	二	自十一日 至十二日	晴	北二	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
二十三日	晴北二	二	自十一日 至十二日	晴	北二	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
二十四日	晴北二	二	自十一日 至十二日	晴	北二	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
二十五日	晴北二	二	自十一日 至十二日	晴	北二	自前十一時 至后七時十分	二〇	一九八	二七二	西南	イロシ	鏡	一	六三〇	前八時三十分熊野發后五時二十五分山川 野入港
二十六日	曇東北二	二	自十一日 至十二日	曇	東北二	自正午 至后六時三十分	二五	一九八	二五三	東	イロシ	鏡	一	二七〇	前八時三十分山川港發后三時三十分四ノ 表避難ス



鮪延繩試驗漁場圖

大正十年 竹島丸



## 記事

十一月 試験船竹島丸船体修理ニ意外ニ日子ヲ要シ出漁季後レ着手后モ機關故障等ノタメ出漁ヲ妨ラレタルモ前年來ノ懸案タル屋久島南ノ新漁場

ニ一回出漁セルニ漁獲ナク種子島漁場へ縣内船ハ未タ出漁セス宮崎縣ノ漁船少數漁業セルモ未タ薄漁ナリ

十二月 試験船ハ機關修理后一回出漁セルモ河豚害ノタメ漁獲ナク縣内小型船數隻出漁セルモ一般ニ不漁ナリ

一月 暖流ノ勢力微弱ニシテ沿岸水ト認ムヘキ冷水帶ノ影響大ニシテ水温分布複雑ヲ極ム潮流北東ニ流ル、コトアルモ微弱ニシテ時ニ東又ハ東

南ニ流レ海水潤濁シ河豚軟刀魚ノ群游夥シ

漁獲物ハトンボ黄肌多ク目録カロ夥シ

魚價鹿兒島市ニテ拾貫三五圓乃至三八圓油津ニテ黄肌五八圓其他四五圓内外ナリ

二月 海况依然不況ナルモ上旬油津沖合好漁アリ、種子島沖合ニテハ中旬ヨリ漁况稍々恢復シ一航海十尾内外ノ漁獲アリ魚体三四貫乃至八、九

貫ノ「トンボ」「キハダ」頗多シ

魚價油津ニテ三八圓乃至四八圓ナリ

試験船竹島丸ハ本月十一日ノ荒天ニ際シ船体故障ヲ生ジ出漁ノ機會ヲ逸スルコト夥シカリキ

## 東隅海面漁業試験

試験趣旨 聯下有明灣外嶺岬肝屬兩郡外海ハ由來漁業ノ見ルベキモノナキヲ以テ之ガ開發ヲ目的トシ前年ヨリ本試

験ヲ開始シ底栖魚族中最モ豊富ナル鰯類ノ漁獲ニ付キ恰モ發動機手繰網漁業ノ勃興ヲ見ルニ至レルヲ以テ其ノ適區ノ

範圍ニ付キ試験セルモ本年ハ更ニ種子島東海岸ニ互リ適區ヲ求メントシ前年同様手繰網ヲ使ヒ試験シ有明灣ニ近キ方

面ニテハ漁礁ヲ中心トスル栖息魚類ノ漁獲ヲ母船式延繩ノ方法ニヨリ試験セリ

方法 種子島東海岸手繰網漁場ノ探求ハ試験船竹島丸(三十馬力)ヲ供用シ主任者及船長以下拾壹名乗組ミ前同様

ノ手繰網ヲ使用シテ春季之ヲ行ヒ有明灣外ノ魚礁ヲ中心トスル母船式延繩ハ同試験船ニ主任者及船長以下拾壹名乗組



ミ漁艇二隻ヲ塔載シテ秋季ニ施行セリ

**試験經過成績** 種子島東海岸ノ手續網試験ハ大正十年五月十一日鹿兒島港出帆種子島熊野浦ヲ中心トシ同月拾四日同地ヨリ東微北七湮附近ニ於テ試験シ初回ニ於テ連子鯛「エソ」金線魚數尾ヲ得引續キ第二回ハ機關故障ノ爲メ作業中止ノ止ムナキニ至リ熊野浦ニ入港翌拾五日ヨリ東北ノ暴風トナリ同浦碇泊危險ナルタメ西之表ニ數日避難シ天候ノ回復ヲ俟テ同拾九日有明灣ニ近キ小山田灣附近ニ二回操業シ連子鯛血鯛「エソ」「ハモ」等十數斤ヲ得タリ此ノ時風潮相反シ操作圓滑ナラザリシモ前年秋季漁獲ニ比シテハ栖息稀薄ナルヤニ思惟セラレタリ二拾日捲揚器修理ノタメ山川ニ廻航同二十三日再ビ小山田灣漁場ニ出漁シ月明時ナリシモ風波靜穩ナリシカバ晝間二回使網後引續キ夜間三回試網シ二拾五六兩日ハ熊野沖ニテ從漁施網前後拾回ニ及ビ「カナガシラ」「レンコ」若干ヲ獲鹿兒島ニ歸港シ六月ニ入り拾一日再ビ熊野沖ニ試験シタルモ何等得ル處ナク同日拾三日日本試験ヲ結了歸港セリ

而シテ此試験ノ經過ニ徴スレバ熊野沖十湮内外ノ六拾尋乃至九拾尋深ノ漁場ハ到ル處暗礁基布シ各暗礁間ハ概ネ砂泥質ニシテ連子鯛類ノ栖息アルモ其ノ暗礁ニ通セザル限リ操業容易ナラザルヲ以テ寧ロ延繩漁法ニヨルヲ便トスルガ如ク其ノ暗礁ヲ離レタル東部ニハ同種漁族ノ栖息アルナラント推サル、モ亦試験ニ用ヒタル捲揚機ノ機構ハ傳導ヲブーレトニ據レルタメ夫等深海ノ使用ニ適セザルタメ充分ノ試験ヲ爲スヲ得ザリシ

有明灣外ノ試験ハ海深六七拾尋以上ノ沖合ハ大隅海峽ヨリ來ル潮流急ニシテ發動機手續網ノ操業困難ナルヲ以テ同海區ノ漁礁ヲ中心トスル母船式延繩ヲ試ミントシ竹島丸ニ漁艇二隻ヲ塔載シ拾月二十五日ヨリ着手シ帆船鯉漁時代殷盛ヲ極メタル火奇正東十海里深百尋線附近ニアル「出隈山」ト稱スル漁礁ヲ目的トシ拾一月一日現場ニ到リ調査セルモ炭礁ヲ發見スルニ至ラズ而モ北東潮流激甚ニシテ漁艇ノ使用不能ナルタメ本船ヨリ投繩試漁セルモ漁獲ナク且ツ北西ノ荒天トナリ引續キ從漁ノ見込ナキタメ終ニ得ル處ナキ儘ニテ十一月二日終了セリ蓋シ秋季偏西ノ季節風卓越スル時

ニ當リナハ本海邊ハ沖合波浪高ク漁艇ニヨル操作極メテ困難ニシテ本船ヨリ從漁スルヲ可トスヘク漁礁「出隈山」ト稱スルモノハ或ハ炭礁ノ隆起セルモノニアラズシテ介殼砂質ノ小丘阜ヲ爲セルモノニアラザルカ特ニ今回其位置ニ通セリト稱スル漁夫ヲ雇入レ調査シタルモ得ルトコロナカリシヨリ見ルモ暫ラク疑ヲ存スルノ外ナシ

### 東隅海面機船手繰網漁業表

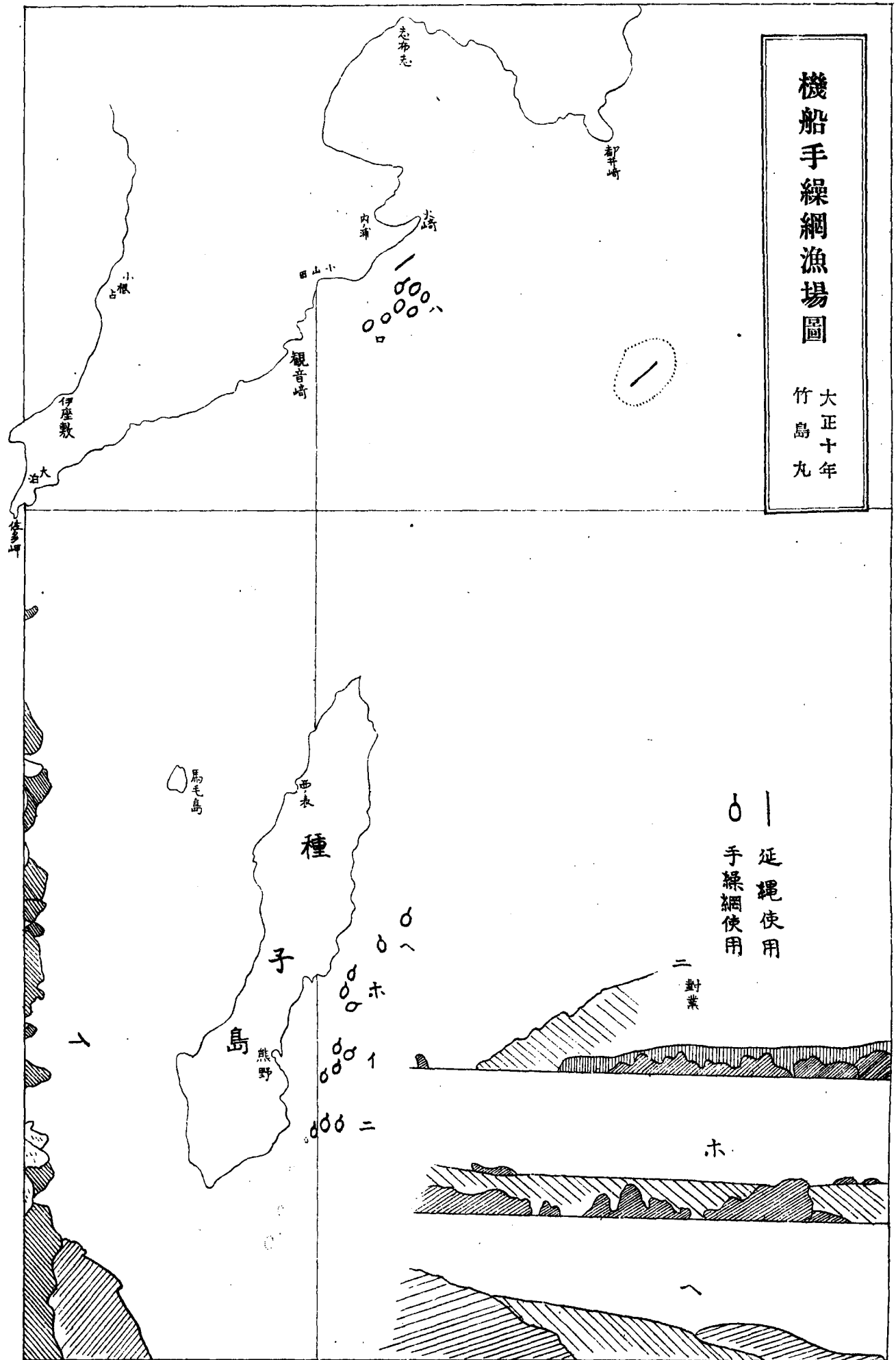
大正十年 竹島丸

月日	天候	漁場	使漁用具	回数	水面温度	潮向速	漁獲時水深	漁獲種類	数量	記	事
十一月十五日	曇 南三四	イ	自前 九、五〇 至ク 一、三〇〇	一	二六、二	南緩	七尋	エレンコ エナガシラ	少量	正午鹿兒島發山川港ニ入ル	
十一月十六日	曇 東三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤	前八、〇〇 避難ノタメ西表ニ向ヒ后二、三〇入港	
十一月十七日	晴 南三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤	前七、三〇 出漁内浦小山田沖從漁第二回目撈揚機不良ノタメ中止山川港ニ向ヒ后二、〇〇入港	
十一月十八日	晴 南三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤	撈揚機修繕ノタメ滞泊	
十一月十九日	晴 南三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤	撈揚機修繕了ヘ山川沖ニ試用后五三〇山川ニ入ル	
十一月二十日	晴 南三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤		
十一月二十一日	晴 南三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤		
十一月二十二日	晴 南三四	イ	自前 一、二〇〇 至后 四、〇〇〇	二	二三、二	南西緩	六尋	アハコ エレンコ エレンコ フモソコヒ	二斤		



機船手繰網漁場圖

大正十年  
竹島九



# 東隅海面延繩漁業表

大正十年 竹島丸

月日	天候	漁場	漁具使用時	使用數	水面	潮向速	漁獲時	種類	數量	記	事
二十五日	曇	北東								鹿兒島發后一、五〇山川入港	
二十六日	晴	北東								前一〇、三〇發后六、三〇内ノ浦ニ入ル途中表面 水温二二、五(二三、五比重二四七―二五七	
二十七日	晴	北東								水先漁夫履入ノタメ溜泊	
二十八日	晴	西								機關修理ニ終日ヲ費ス	
二十九日	晴	西								前八、〇〇發一〇、三〇漁場ニ達セシモ西風波 高ク作業不能ノタメ后二、〇〇宮崎縣外浦ニ退 難ス	
三十日	晴	西								前八、〇〇發前日同様ニテ后二、〇〇内ノ浦ニ 入ル	
三十一日	晴	西								荒天内ノ浦休泊	
十一日	晴	北西	自前 至后	一〇、〇〇 四、〇〇		北西急	各 イトヨリ 小フカリ			前七、五〇發高波漁艇使用困難ノタメ本船ヨリ 作業后一〇、〇〇山川ニ入ル	
二日	晴	北								后三、三〇鹿兒島ニ入ル 目下漁場高波ニテ作業困難ノタメ本試験ヲ中止 ス	

松隅海面漁業試験

# 小型發動船漁業試驗

## 一、鯖釣漁業試驗

**試驗趣旨** 縣下南海漁場ノ鯖釣ニ小型發動船ヲ用ヒ操業ノ便否ト經濟的關係ヲ明カニセントシ大正四年ヨリ本試驗ニ着手シ逐年其效果ハ認メラレ民間同種漁船ノ從漁スルモノ六十余隻ニ達シ本場ハ益之ヲ發達ヲ助長シ漁場ノ擴張ヲ爲サントシ試驗ヲ繼續シツ、アリ

### 試驗經過及成績

試驗船ハ松島丸（肩巾十尺、十二馬力）ニ乗組員ハ機關部二名漁夫十名主任者ヲ合セ拾參名ニテ梅吉會根

屋久會根佐多岬三方會根ヲ主トシ從業セリ本年ハ三月五日ヨリ六月二十一日迄三ヶ月キニ互リ是等ノ漁場ニ出漁シ三十六回ニテ鯖四万四千五百六十四尾手取價格二千九百拾壹圓拾六錢ヲ得タリ前年ニ比尾數壹万三千三百八尾ヲ増獲シタルモ價格ハ却ツテ六百四拾壹圓余ヲ減シ純益五百二拾圓余ヲ收メタリ

本年ノ漁況ハ梅吉會根ハ三月初漁以來好漁四月上旬ヨリ盛漁期トナリ一夜三、四千斤ノ漁獲數次ニ及ビ五月中旬迄持續セルハ近來稀ニ見ルトコロナラン三方會根ノ漁期ハ昨年ヨリ遅ク五月上旬ヨリ好漁中旬盛漁季トナリ梅吉會根ニ劣ラヌ大漁ニテ六月上旬ニ及ビタルモ岬會根ハ五月上旬一時好漁ヲ見タルモ一二回ニテ遂ニ漁況不振ノマ、梅雨期ニ入り出漁ヲ妨ケラル、コト多ク漸ク終漁季トナリ本月下旬ニテ試驗ヲ終レリ

以上梅吉、三方會根ノ豐漁ナリシト小型發動船ノ盛ニ出漁シ鮮魚ノ供給潤澤トナリタルタメ魚價暴落シ最低斤參錢四五厘ニテ普通七、八錢ヲ上下スルニ過ギズ從ツテ昨年ヨリ漁獲量多カリシニ比シ價額ハ減收セリ

### 鯖漁業ニ關スル調査

本試驗中鯖漁業ト海水其他ノ關係ヲ知ラントシ水溫比重ノ觀測其他ノ調査ヲ爲シツ、アリテ昨年迄ノ經過ハ同年報告シ「鯖漁業ト海洋觀測」ト題シ發表セシトコロニシテ本年ノ調査ニ於テモ略ホ同様ノ結

果ヲ得タリ左ニ摘要ヲ記スヘシ

鯖漁業ト水溫比重ハ三月中ハ水溫十八度五乃至二十一度二比重二五六乃至二五九、四月中ハ水溫二十度七乃至二十度五比重二五二乃至二五三、五月中水溫二十度八乃至二十四度六比重二五二乃至二五五、六月ハ水溫二十度八度八乃至二十三度四比重二五一乃至二五七ナリ即各月ヲ通シ鯖漁獲時ノ水溫ハ最低十八度五最高二十四度六比重ハ最低二五一最高二五七ナリシ

之ヲ各漁場別ニ見ルトキハ鯖ノ漁獲アリシハ屋久會根ハ水溫十九度九ヨリ二十度比重二五八ヨリ二五九、梅吉會根ハ水溫十八度五ヨリ二十四度六比重二五二ヨリ二五八、三方會根ハ水溫二十度八ヨリ二十三度七比重二五一ヨリ二五七ノ間ナリシ

表面水溫比重ト下層水溫比重ノ差就中上下層水溫ノ差少キトキ即チ表面ト鯖ノ游泳層ト殆ンド同一水帶ナルトキ漁獲多シトハ前年發表セルトコロニシテ別記漁業表記事欄ニ觀測シタル都度記入シアル如ク本年ハ概シテ其差少ク從ツテ好漁ナリシカ如シ

鯖ノ食物ニ付釣獲ノ都度肉眼的ノ調査ヲ爲セル漁期中數回多量ニ「あみ」ヲ食セルモノヲ見タルノミニテ概シテ形ノ見ユルモノナカリシ

鯖ノ游泳層ハ此季ニ於テ表面下十尋位迄ニアルトキ漁獲ニ好都合ニシテ一夜千尾以上ノ大漁ヲ爲セル例ヲ見ルニ始メ七尋位釣糸ヲ延ハシテ漁獲ヲ見次ニ四尋最后ニ一尋位ニテ漁獲ヲ見ルニ至リ如斯場合一人一時間ニテ百尾以上ヲ釣揚タリ

鯖漁業ト風浪ハ本年試驗中ニモ數回遭遇シ波浪高キ場合ハ常ニ餌付不良ニシテ薄漁又ハ不漁ニシテ中止スルノ餘儀ナキニ至レリ唯一回 會根ニ於テ水溫比重モ前回ト大差ナク風浪ナカリシモ全ク餌付不良ニ終レルコトアリ

鯖ノ大サハ初季ノモノ大ニシテ后季ニ至ルニ從ヒ小形トナルヲ例トス去年調査シタルモノ左ノ如シ

鯖ノ体長調

月日	体長	体周	重量	月日	体長	体周	重量
三月二十二日	尺分 一三五 一三三 九三	一六七	二二	五月二十四日	尺分 一五〇	一八〇	二四
四月九日	尺分 一四八 一三三 九三	一六七	二二	同 二十五日	尺分 一五〇 一三三 九三	一八〇	二四
同 十四日	尺分 一三三 一二五 一二三	一六七	二二	同 二十八日	尺分 一三三 一二五 一二三	一六七	二二
同 二十九日	尺分 一二五 一二三 一二三	一六七	二二	六月四日	尺分 一二五 一二三 一二三	一六七	二二
五月九日	尺分 一一三 一一一 一一一	一六七	二二	同 六日	尺分 一一三 一一一 一一一	一六七	二二
同 十三日	尺分 一一一 一一一 一一一	一六七	二二	同 十一日	尺分 一一一 一一一 一一一	一六七	二二
同 十四日	尺分 一一〇 一一〇 九七	一六七	二二	同 十四日	尺分 一一〇 一一〇 九七	一六七	二二
同 十五日	尺分 一〇五 一〇五 九三	一六七	二二				



鯖釣漁業表

大正十年度

松島九

月日	天候	漁場	漁具使用時間	表面水温	比重	潮向速	餌料	種類	数量	價格	記事
三月五日	晴 西三										后一、一五鹿兒島發八、四七山川入港
六日	曇 西二										準備
七日	晴 西三										荒天山川休泊
八日	晴 西一	屋久子	自前 八、二五 自后 四、三〇	三〇、〇	二九、八	四 緩	タレクチ	サ ハカツ チ	一五	三、六〇	前九、三〇山川發漁場十尋深水温一九九、比重二五六八
九日	曇 南東三	同	自前 一〇、〇〇 自后 六、二〇	一九、九	二九、六	同	同	サ ハカツ チ	一七	三、六〇	前夜終漁后一漆ニ入り后五、四五出漁十尋深水温一九九比重二五七八
自十五日 至十五日											十日 前六、三〇山川入港 后荒天休泊
十六日	晴 西二	梅吉	自前 七、〇〇 自后 五、二〇	三〇、〇	二九、二	東 急	サ	サ バ	三六	三、〇八	前九、〇五山川發海水混濁減セルモ尙清澄セス
十七日	晴 南二	同	自前 七、〇〇 自后 一、一五	三〇、〇	二九、二	同	同	同	三六	三、〇八	十尋深水温二一、〇
十八日	曇										后一、三〇谷山ニ入ル
十九日	曇 南東三										プロヘラ取替ノタメ后一、一六鹿兒島ニ入ル八〇〇山川ニ入ル
二十日	曇 北西四										荒天山川休泊
二十一日	曇 北西四										前九、一五出漁海水清澄ス波瀾大急潮ニシテ操業不便ナリ途中鯉群ニ會ス
二十二日	曇 北西三	梅吉	自前 六、四五 自后 四、〇〇	二二、三	二九、五	北東 急	同	サ バ	四六	八、七〇	十尋深水温二一、〇比重二五六八
二十三日	曇 北西三										后三、四〇谷山ニ入ル

小型發動船漁業試驗



小型發動船漁業試驗

十四日	晴 四一	全梅吉	至自 前 后	七、七〇〇	二、六	二、五〇	北東級 全	サ	バ	二、五三	一、九、六
十五日	晴 四二										
十六日	晴 南四一	三方 至自 后 后	七、二〇〇	一、三〇〇	二、九		東急 全	サ	バ	七	
十七日											
十八日	晴 北四二	全梅吉	至自 前 后	五、七〇〇	三、〇		北西急 全	サ	バ	二、七〇	三、一〇
十九日											
二十日	曇 北東二	全三方	至自 后 后	一〇、七〇〇	三、五		東急 全		ナ	シ	
二十一日	曇 東二										
二十二日	晴 西北四一										
二十三日	晴 南四二	全梅吉	至自 前 后	二、七〇〇	三、		北東急 全	サ	バ	一、六二	一、三、六
二十四日	雨 北東三										
二十五日	雨 東三										
自二十六日 至二十八日											
二十九日	曇 東一	全梅吉	至自 前 后	七、〇〇〇	三、七		北東 全	サ	バ	二、	二、〇〇
三十日	雨 東三										

前五、一〇出漁后七時ヨリ十二時迄好  
漁 廿尋深水温二〇、六

后五、三〇谷山ニ入ル

后三、〇〇ヨリ出漁南東風強シ  
十五尋深水温一九、九三十尋一九、〇

前二、三〇山川ニ入ル

荒天休泊  
前九、〇〇出漁開闢ヨリ漁場迄ノ水  
温二〇、五二三八二四、九二四、〇

二、八二四二ノ順ナリ飛鳥多シ  
十五尋深二三、〇三十尋二〇、二ナリ

前一、三〇枕崎ヲ經小湊ニ入ル

前一〇、一〇出漁風浪高ク餌付不長ナ  
十五尋深水温二三、五三十尋同シ

山川ヲ經后〇、三〇鹿兒島ニ入ル

后五、二〇山川ニ入ル

前七、四〇出漁  
十尋深水温二〇、八比重二五二八

二十尋ノ一九、二全二五二八  
后三、三〇山川ヲ經鹿兒島ニ入ル

濱ノ市ニ漁獲物賣却后九、三〇山川ニ  
入ル

荒天山川休泊  
前八、〇〇出漁餌付不長

十尋水温二〇〇比重二五〇七  
二十尋全一七八全二四九七  
后二、四〇山川入港

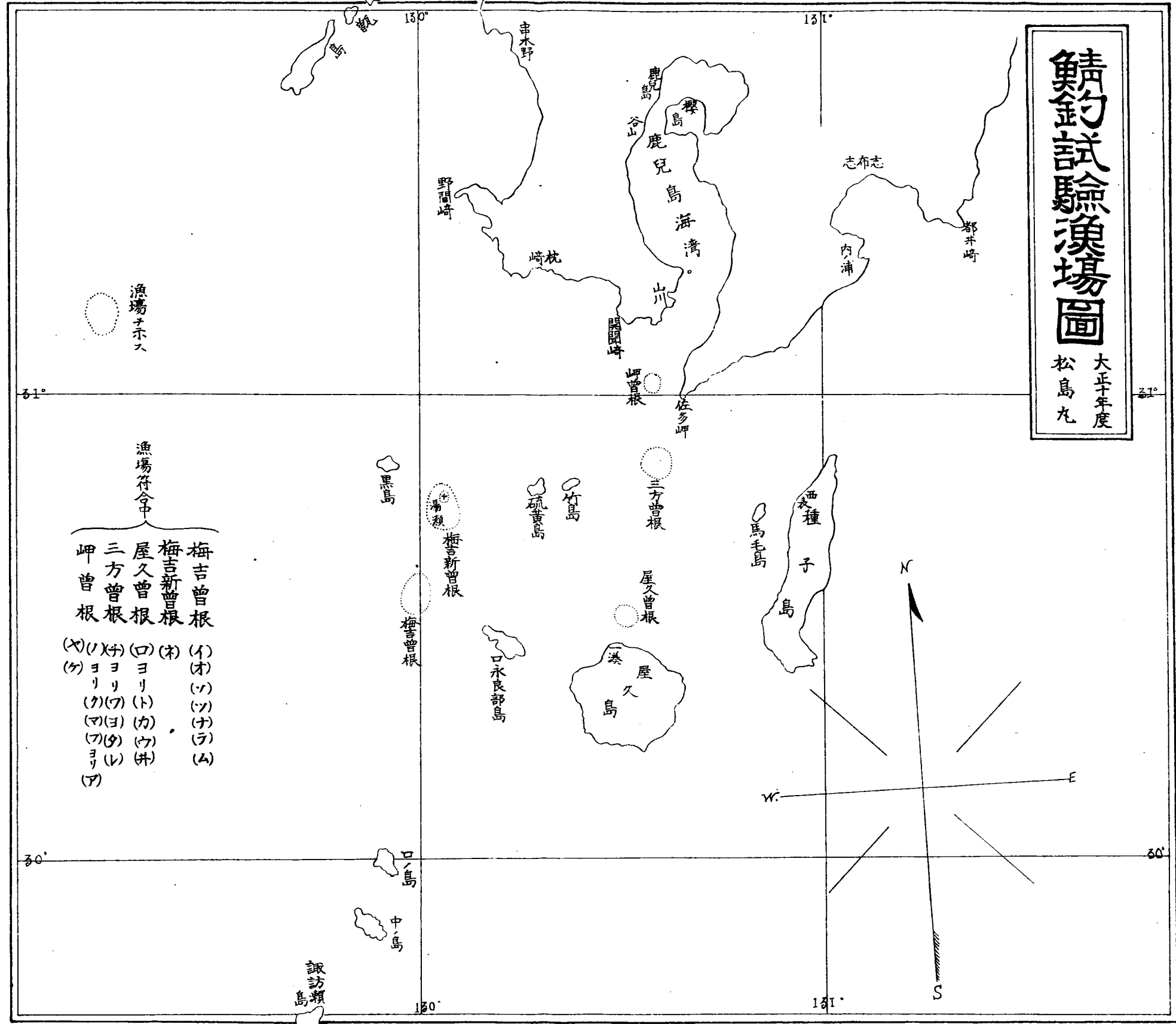
十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一五
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日月
晴	晴	晴	晴	曇	雨	晴			雨	雨	晴	晴		
東二	四三	北東二		北東二	北三				南四四					
全	全	三方		全	全	梅吉	三方			梅吉	三方	梅吉	三方	三方
至自	至自	至自		至自	至自	至自	至自			至自	至自	至自	至自	至自
前	前	前		前	前	前	前			前	前	前	前	前
三、三〇〇	七、三〇〇	三、三〇〇		二、〇〇〇	四、二〇〇	七、四二〇	〇、二七〇			二、五三〇	一、七〇〇	一、五三〇	〇、七三〇	〇、三〇〇
二、六	二、八	三、七		三、〇	二、〇	二、六								
二、五七	二、三三	二、五七				二、五七								
	東	東												
メレクチ	メレクチ	メレクチ		全	全	メレクチ	全			全	全	全	全	全
全	全	サ		全	全	全	サ			全	全	全	全	サ
		バ					バ							バ
二、五七	二、五七	二、四〇		一、二八	一、九三	二、七九	八、四			一〇、四	一、五三	一、四九	一、四九	一、三三
二〇、六	二六、六	八、七		七、七	八、八	二〇、三	七、四			五、九	七、五	七、四	七、四	八、七
二十尋水全二一、三五	后四〇〇全二一、三五	前一〇、〇〇出流	后一〇、〇〇谷山ニ入ル	前九、一〇永田着后一、〇〇出流	前六、三〇口永良部着后四、二〇出流	前八、三五發后七三五鹿兒島ニ入ル	前一、一五出流			前八、三五發后七三五鹿兒島ニ入ル	前九、一〇永田着后一、〇〇出流	前六、三〇口永良部着后四、二〇出流	前八、三五發后七三五鹿兒島ニ入ル	前一、一五出流
全三五四七	全三五四七	全三五四七		全三五四七	全三五四七	全三五四七	全三五四七			全三五四七	全三五四七	全三五四七	全三五四七	全三五四七





# 鯖釣試験漁場圖

大正十年度  
松島丸



- 漁場符号
- |     |      |      |       |      |
|-----|------|------|-------|------|
| 岬曾根 | 三方曾根 | 屋久曾根 | 梅吉新曾根 | 梅吉曾根 |
| (ヤ) | (イ)  | (ロ)  | (ホ)   | (イ)  |
| (ケ) | ヨリ   | ヨリ   | ヨリ    | (オ)  |
|     | (カ)  | (ク)  | (ク)   | (カ)  |
|     | (マ)  | (マ)  | (マ)   | (カ)  |
|     | (リ)  | (リ)  | (リ)   | (カ)  |
|     | ヨリ   | ヨリ   | ヨリ    | (シ)  |
|     | (ア)  | (ア)  | (ア)   | (シ)  |
|     |      |      |       | (シ)  |
|     |      |      |       | (シ)  |
|     |      |      |       | (シ)  |

漁場ナシ

諏訪島

## 漁況

- 三月 二月下旬ヨリ三月上旬ニ於テハ専ラ民間帆船漁業ヲナスモノヲ主トシ梅吉曾根屋久曾根ニ於テ從減弗々ノ漁事アリ三月上旬小型發動船續々出漁シ上旬全部出揃ヒタルモ當時梅吉曾根ニ於テハ海水潤濕甚ダシク漁況不振ニシテ主トシテ屋久曾根ニ從業シタルモ中旬以降海水清澄ニ復スルニ從ヒ梅吉曾根好漁トナリ大漁ヲ見ルニ至ラザルモ流揚殷盛ヲ極メ一夜最高壹千斤内外ノ漁獲アリ下旬ニ及ビテ益々漁況順調ニ向ヘリ
- 當時從漁船小型發動船七拾有隻帆船二百隻ニ及ベリ
- 四月 前月以來引續キ好況ニ在リシ梅吉漁場ハ四月上旬及中旬ニ亘リ愈々大漁ノ絶頂ニ達シ一夜四五千斤ノ漁獲ヲ擧ゲルコト數次ニ及ヒ下旬ニ至リ稍々下火ニ向ヒタルモ依然好漁ヲ持續セリ
- 五月 引續キ梅吉曾根ハ好漁ヲ得テ本月中旬ニ及ビ下旬ニ至リテ終漁シ一方三方岬兩曾根ハ上旬以來俄カニ好漁ヲ來シ三方曾根ハ中旬ニ亘リ大漁アリ一夜三千斤内外ヲ擧ゲ下旬ニ至ルモ依然好漁ナリシモ岬曾根ハ途ニ漁況ヲ復活スルニ至ラザリキ
- 六月 上旬ニ於テ獨リ三方曾根ニ好漁ヲ續ケタルモ中旬梅雨季ニ入ルト共ニ天候險惡ニシテ出漁ヲ妨ケラレ漸次ニ漁況終期ニ近ツキ下旬ニ至リテ全ク閉漁ニ至レリ

## 二、秋太郎(旗魚)延繩漁業試驗

### 試驗趣旨

小型發動船應用漁業ノ一トシテ縣外漁場へ出漁ヲ促スノ目的ヲ以テ大正五年度ヨリ着手シ逐年結果良好ニシテ本年ハ九月拾日ヨリ拾一月九日迄ハ長崎縣對島水道及西方沖合ニ同十一月十三日ヨリ十一月二十四日迄ハ同縣五島沖合ニ轉シ試驗セリ

### 試驗經過成績

試驗船ハ松島丸ヲ供用シ乗組員十一名漁具ハ前年來ノモノニ左撚七本ソイヤ三尺許リヲ釣鉤ノ元ニ附シタルモノ半數ヲ在來ノセキヤマ釣ト交互ニ配置シ漁獲ノ比較ヲナスコトニシ拾五鉢ヲ準備シ九月拾日縣下枕崎港ヲ出帆同月拾八日根據地對馬嚴原ニ着シタルモ荒天ノタメ漸ク同月二十二日同地ヨリ南方沖合ニ出漁シ旗魚三尾鱈二尾ヲ漁獲ス當時表面水溫二四度西南ニ急ナリシカバ同月二十五日ハ遙ニ西方ノ沖合ニ轉漁シタルニ表面水溫三三、八



度潮流東北ニ緩ニシテ旗魚ニ尾鱸三尾ヲ漁獲セリ其後十月末日迄専ラ東方ヨリ南西漁場ニ互リ出漁拾七回ニ及ビタルモ毎回數尾ノ漁獲ヲ見タルノミニテ好漁ノ機會ナカリキ十月十三日ヨリ東方沖合漁場海水涸濁シ加フルニ前年ニ比シ水溫常ニ低ク爲メニ漁況不振ノ裡ニ椎移シ漸ク五島方面ニ好漁ヲ期待シ十一月拾日同方面ヘ轉漁セリ然ルニ例年五島方面ハ荒天多ク操業容易ナラズ加フルニ漁場遠隔ナル爲メ特ニ本季ニ於ケル漁船トシテハ松島丸ハ船型及機關ノ小ナルヲ認メラレ僅カニ拾一月十四日拾七日二十日ノ三回男女群島附近及大瀬崎沿岸ニ試漁僅カニ旗魚貳尾ヲ獲タルノミ加フルニ海水涸濁シテ水溫低ク常ニ餌料乏ク漸ク終漁ニ近クニ及ビ十一月二十四日試験ヲ終了シ同月二十八日鹿兒島港ニ歸着セリ

本年ノ漁獲總高ハ旗魚三十一尾其他雜魚ヲ合シ價格千四百七十四圓ニシテ前年ニ比スレバ尾數十六價格五百八十六圓ノ減收トナレリ之ハ本船が専ラ從漁セシ對馬近海ハ薄漁ニシテ其好漁ナリシ五島近海ニテ漁船少サキタメ活動ヲ爲シ得サリシニ由レリ「セキヤマ」ニ「ワイヤ」ヲ用ヒタル成績ハ良好ニシテ殊ニ魚ノ釣懸リ后麻製ニ比シ強靱ナルハ好都合ナリシ本場船ト前后シテ對馬近海ニ出漁セシ縣内小型發動船ハ著ルシク増加シ四十一隻ニ達シ同期間ノ漁獲ハ左ノ如ク總額六万四千餘圓ニ達セリ

第一東新丸	谷山	◎ 一、三三八	松吉丸	全	一、五三五	住吉丸	串木野	◎ 五九七
錦江丸	全	◎ 一、〇六六	準人丸	全	一、八八九	榮壽丸	全	?
松江丸	全	◎ 一、三六五	第一勢至丸	全	◎ 一、三三四	第二東新丸	谷山	◎ 一、〇〇〇
開運丸	全	◎ 一、〇〇〇	新榮丸	全	◎ 二、〇四三	藥師丸	全	◎ 一、六六五
第二勢至丸	全	◎ 二、八〇〇	谷山丸	全	◎ 二、二六七	第三東新丸	全	◎ 一、六六一
佐岬丸	全	◎ 二、三三四	熊野丸	種子島	◎ 一、五九九	吹漁丸	大川	一、一九三

米吉丸	全	一、三三三	天神丸	水成川	八二	開福丸	全	二、二五五
幸運幸丸	全	九五五	岬新丸	大泊	一、〇〇三	奉公丸	全	一、六九四
三浦丸	全	二、三三三	富江丸	川尻	二、一〇五	晴海丸	全	二、一三三
開開丸	川尻	一、五九八	川尻丸	全	二、七〇一	榮正丸	伊座敷	一、三三三
海運丸	全	一、九六三	開漁丸	全	一、〇六二	平安丸	全	六七六
富士丸		二、五三三	開進丸	全	二、九八八	藍丸	山川	五七七
富士川丸		二、五六六	薩摩丸	全	一、八六六			
鶴丸	山川	◎二、〇〇三	勇進丸	全	一、六六二	計		六、二一八

◎印ヲ附セルハ五島漁場ニモ出漁セルモノ其他ハ對馬近海ノミニテ漁業セシモノナリ

從來本漁業ニ長セル串木野村漁船ハ發動船ハ前表二隻ノ外未タ少數ニテ多クハ帆船ヲ用ヒ對馬近海ノ漁獲振ハサルヲ見ルヤ早クモ五島漁場ニ轉シ最低二千圓ヨリ最高七八千圓位ノ收穫ヲ見同漁場ニテハ一航海四十尾價壹千圓位ノ水揚ヲ爲セル例少カラサルモ其漁場ノ遠距離トナレルタリ發動船ニ改造ノ機運著ルシク濃厚トナリツ、アリ然レモ本場船ハ元ヨリ其他機關十五馬力程度ノ漁船ニテハ五島近海ノ從漁ハ海況ニ精通セサル限リハ屢々風波ノ難ヲ感スルユヘ漸次船型機關ヲ大形ニ改ムルノ要アリ從ツテ小型船トシテハ出漁期ヲ早メ八月頃ヨリ朝鮮南岸巨濟島沖ニ漁業シ魚群ヲ逐フテ對馬近海ニ移ルヲ利トスヘシ尤モ本年對馬近海ノ不漁ハ荒天多ク又屢々南西又ハ西ヨリスル逆潮ノタメ海水濁濁シ餌イカノ漁獲後レタ鯖モ其期間短クシテ餌料不便ナリシ等平年ト事情ヲ異ニセルモノアリシニ由ルモ漁期ヲ早メ朝鮮南岸ニ漁獵ヲ試ムルコトハ有望ニシテ必要ナリト謂フヘシ

# 旗魚延繩漁業表

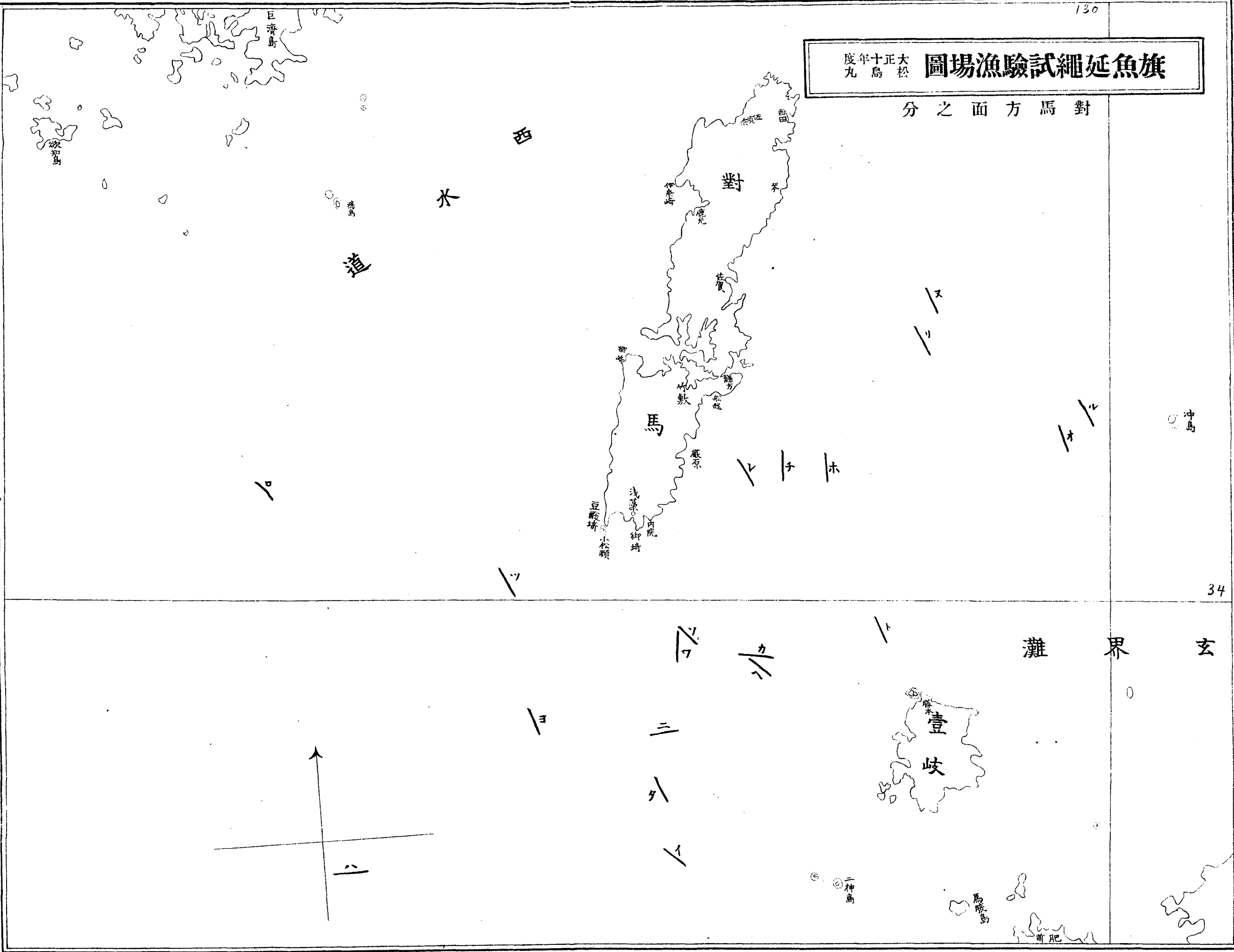
大正十年度 松島丸

月日	天候風力	漁場符號	漁具使用時	鉢數	水面水溫	比重	海潮流速	餌料	種類	數量	平均重量	價格	記	事
九月十日														
十五日														
十七日														
十八日														
二十九日														
二十一日														
二十二日	北々東	イ	自前六、三〇 至同二、三〇	八三、〇			南西急	サ バ		フゴマ カトゲ	二一三	二五、九	荒天休泊 后五時一五分發鰯釣チナン同十一時流 場ニ向フ	
二十三日														
二十四日														
二十五日	北	ロ	自前六、〇〇 至后一、五〇	八三、七			北東緩	サ バ		フマ カゲ	三三	一七、三	前六時着從流后五時四十分嚴原ニ漁獲 物賣却后餌釣チナス 前〇時二十分漁場ニ向ヘルモ強風ノタ メ嚴原ニ引返八時十五分入港 后五時發餌釣チナン鰯九〇イカ八〇チ 得同十一時五十分漁場ニ向フ	
二十六日	北西													
二十七日														
二十八日	晴	ハ	自前六、一〇 至后二、五〇	七三、五			北急	イサ カバ		サカシキ サアラ	一三	七、三	前六時着從流后六時淺瀬入港	

十六日	十五日	十四日	十三日	十二日	十一日	十日	自至九日	五日	四日	三日	二日	十一日	三十日	二十九日
曇	曇	曇	曇	曇	晴		日	曇	晴	晴	日	日月	霧	霧
一東	一北	二北	三北	二北	一北			北四	北二	北三			北三	北四
ロ	オ		ル	ヌ	イ			チ	ト	ヘ			ホ	ニ
自前 三〇〇五	自前 一六〇〇		自前 一六〇〇	自前 一六〇〇	自前 一六〇〇			自前 〇六〇〇	自前 〇六〇〇	自前 〇六〇〇			自前 二〇〇〇	自前 一五〇〇
八三、七	七三、八		六三、〇	六三、五	七三、七			七三、五	八三、〇	六三、五			七三、九	六三、八
三三、東	三三、北東		三三、北東		三三、北東			三三、四	三三、東	三三、北東			三三、東	三三、北
急イサ	急イサ		急イサ	急イサ	急イサ			急イ	急イサ	急イ			急イ	急イ
カバ カ シ キ	カバ カ シ キ		カバ カ シ キ	カバ カ サ ラ	カバ カ フ カ シ キ			カ シ イ ラ キ	カ ゴ ア ト リ	カ シ マ カ ツ キ イ ラ			カ シ イ ラ	カ カ シ キ
三			一	一	二			一	一	一			一	一
								一	一	一			一	一
一四、八			三、五	三、五	二五、二			一八、六	七、九	四、七			一、八	八、七
前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ	前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ		前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ	前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ	前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ			前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ	前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ	前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ			前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ	前六時二十分着從漁急潮枝繩垂下不充 分ナルタメカ漁獲ナシ 前六時着從漁后三時四十五分嚴原ニ入 ル夜釣釣チナセシモ不漁ナリ



旗魚延繩試驗漁場圖 大正十年九月 對馬方面之



道

西

水

對

馬

對馬方面之

34

玄界灘

壹

岐

馬

前肥

神島

ニ

タ

ノ

カ

ノ

ヨ

ソ

ト

チ

リ

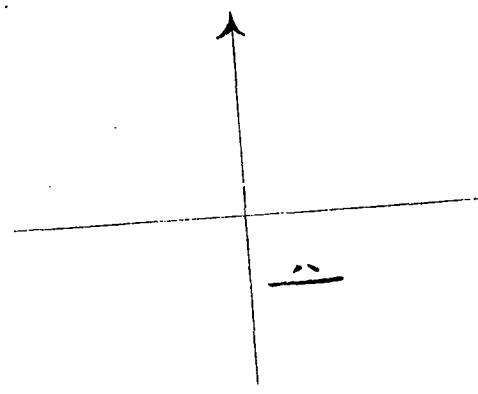
リ

ヌ

オ

ノ

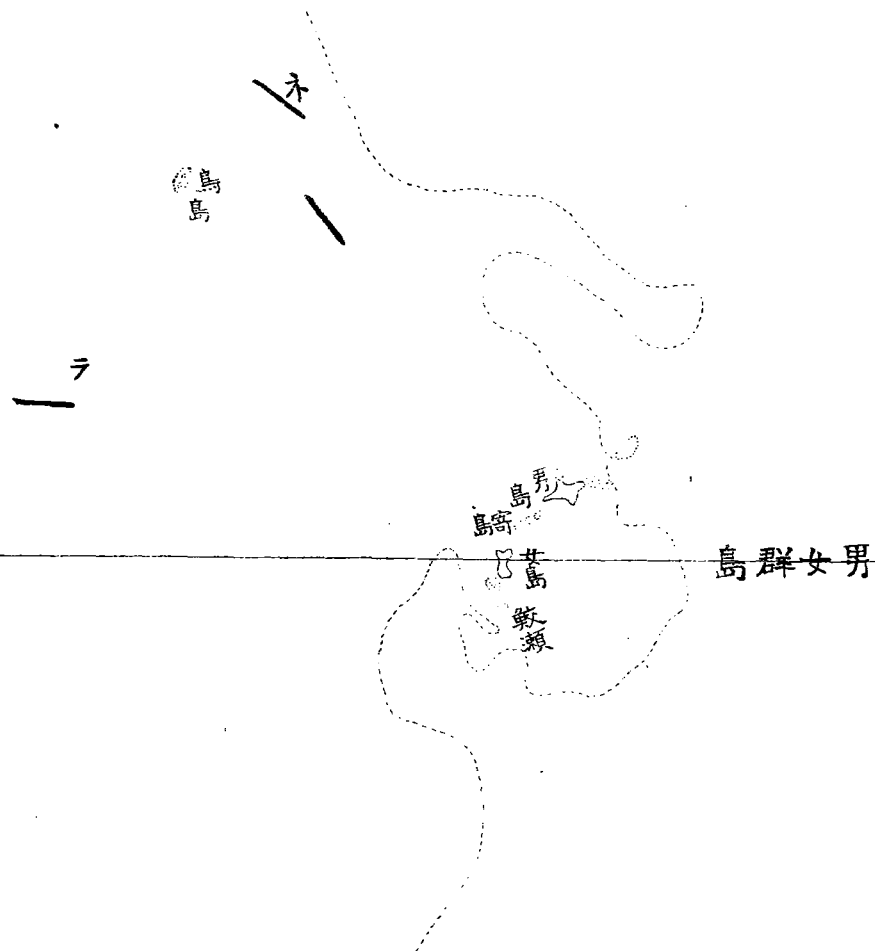
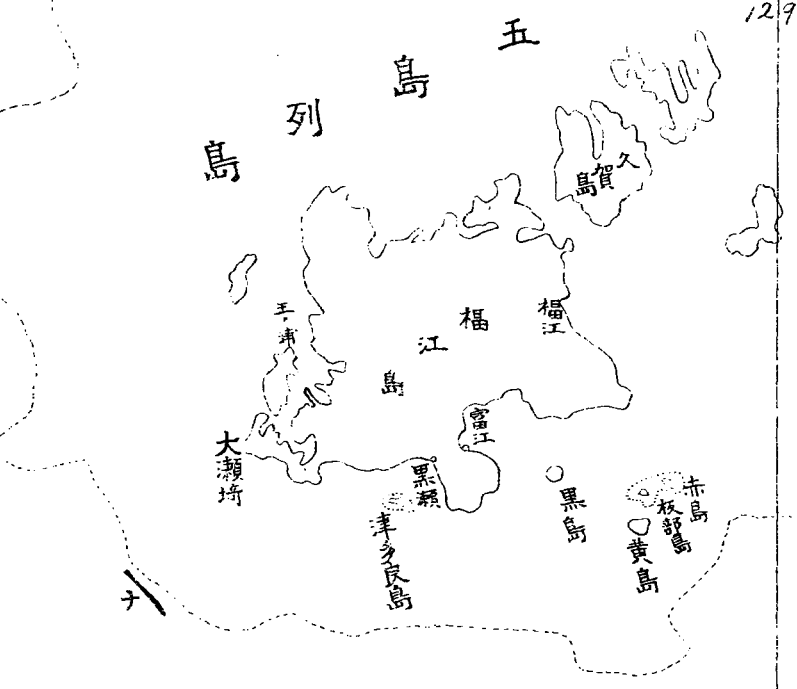
沖島



# 旗魚延繩試驗

(五島方面之部分) 大正十年年度 (松島丸)

129



32

小型發動船漁業試験

計	二十八日	二十七日	二十五日	二十四日	自二十一日 至二十三日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十四日	十三日	十二日
	曇	晴	四	晴		曇	晴	曇	晴	晴	曇	雨	晴	晴
			南 四	北 三		北 東	不 定	南 五	南 西	南 西	南 西	東 二	東 二	北 二
						ラ			ナ			ホ		
						自前 七、〇〇 至後 三、〇〇			自前 七、二五 至後 二、〇〇			自前 七、〇〇 至後 〇、〇〇		
						九三、四			三〇、六			三三、六		
						三三、西			三三、東			三三、北		
						急 イサ			緩 イ			緩 イサ		
其カ 他キ						カバ カ カ シ キ			カ			カバ カ カ シ キ		
三						一						一		
						一、四、八、八			一、六、〇			一、七、〇		
						前七時ヨリ從漁后二時島島ニ向ヒ餌釣 チナス漁獲アリシモ荒模様ノタメ富江 ニ歸ル			前七時ヨリ從漁后二時島島ニ向ヒ餌釣 ク見込少シ后三時半富江ニ入ル			前七時着餌乏シキタメニ鉢丈使用后八 時富江ニ入ル		前六時五十分發同十一時四十分富江ニ 入ル
						荒天休泊			荒天休泊			荒天休泊		
						后八時半發歸縣ノ途ニ就ッ			前十一時二十分發餌揚ニ向ヒイカ釣ヲ ナセシモ漁獲少シ			后八時半發餌揚ニ向ヒ漁業セシモ僅ニ イカーニサバ八尾ヲ得ルニ過キス		
						后九時山川ニ入ル			餌乏シキタメニ鉢使用海水濁リ水温低 ク見込少シ后三時半富江ニ入ル			后八時半發餌揚ニ向ヒ漁業セシモ僅ニ イカーニサバ八尾ヲ得ルニ過キス		
						漁具手入チナス			荒天休泊			前七時着餌乏シキタメニ鉢丈使用后八 時富江ニ入ル		
						后〇時半鹿兒島ニ歸ル			荒天休泊			前七時着餌乏シキタメニ鉢丈使用后八 時富江ニ入ル		





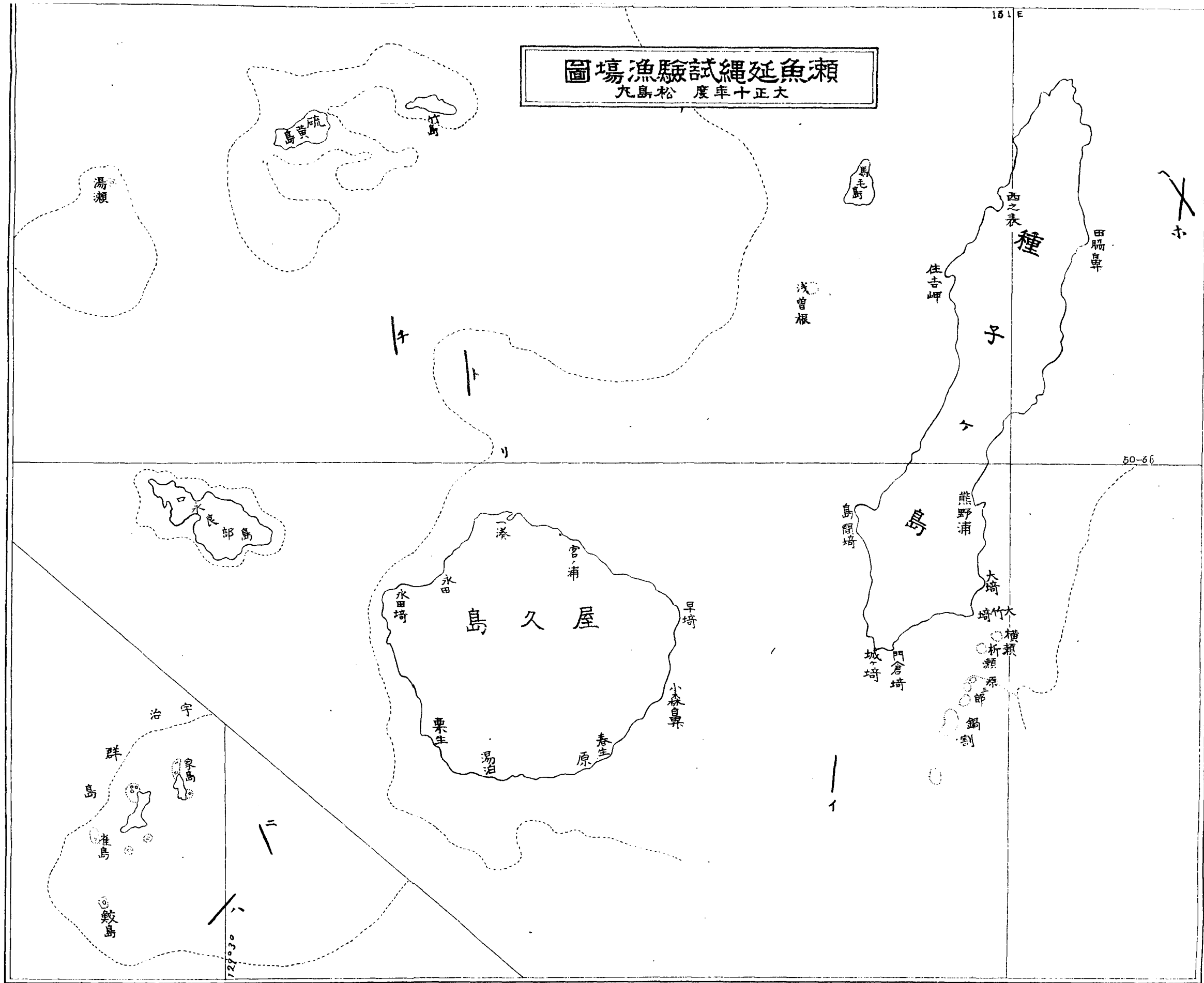


二十五日	二十六日	二十七日	二十九日	三十日	三十一日	一二日	二日	三日	四日	五日	六日	七日	八日	九日	十日	
曇	曇	晴	晴	曇	曇	雨	曇	曇	曇	曇	曇	晴	晴	曇	曇	
					西北	東	東	東	北西	北西	北西	東	西	北東	北東	
					〆	ニ	ニ	ニ	〆	〆	〆	〆	ホ	ホ	〆	
					自后四時半	自前七時五分	自前七時五分	自前七時五分	自前四時	自前四時	自前四時	自前四時	自前四時	自前四時	自前四時	自前四時
					一三	四	四	四	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	
					一八、五				一九、二	一九、二	一九、二	一九、二	一九、二	一九、二	一九、二	
					北東緩	同	同	同	北東緩	北東緩	北東緩	北東緩	北東緩	北東緩	北東緩	
					ウルメ	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	
					其	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	
					及	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	魚	
					七尾											
					四六、七〇											
					前九時山川港發食糧及傳馬船修理ノ											
					タメ鹿兒島入港											
					鹿兒島港泊											
					鹿兒島發山川港入港											
					餌料購入ノタメ山川出帆正午住吉浦											
					着											
					前七時全所發后四時宇治島着從漁終											
					了后向島へ假泊											
					假泊地發從漁々具岩石ニ給付キ作業											
					困難ヲ感ス											
					漁獲物賣却ノタメ枕崎ニ向ヒシモ波											
					浪高ク坊ニ入港休泊											
					漁獲物賣却ノタメ全地發山川ニ向フ											
					荒天山川港休泊											
					前七時全地發屋久曾根ニテ餌釣チナ											
					セシモ漁ナク竹崎沖ニ轉流イカ釣チ											
					ナス											
					餌料不足ノタメ熊野休泊夜ハ全地沖											
					テ餌釣チナス											
					荒天熊野浦休泊											
					前六時全地發八時田脇浦着											
					前三時發田脇曾根ニ出漁從漁十一時											
					終了											
					前日ノ漁場ニテ從漁正午終了漁獲物											
					賣却ノタメ谷山ニ向フ											

二四二  
二七三  
二七一  
二六一  
八二五六、一〇〇

瀨魚延繩試驗漁場圖

大正十年度 松島丸



二十五日	二十四日	二十三日	二十二日	二十日	十九日	十八日	十七日	十六日	十五日	十三日	十二日	十一日
晴	雨	晴	雨	雨	曇	曇		雨北四	雨東	晴東	晴	曇
	三南	一東		三東	二東	二東						
		リ		チ	ト	リ						
		至自 后前		至自 后前	至自 后前	至自 后前						
		三六 時時		二七 時時	二八 時時	五八 時時						
				六	六	一						
		二〇六		八五	八五	一九五						
		東急		東緩	東緩	東緩						
	イ ラ シ	キ ビ ナ ゴ		鯖	鯖	キ ビ ナ ゴ						
		鯖		ア ラ	ホツア フマ カリラ	鯖					其ノフ クダ 他ノイカ	
		五三斤		二尾	二尾 二尾	三〇〇斤 二〇七〇〇					一三 一三 一三	
		六四、〇五〇			七、六〇〇							
		前十時山川發屋久曾根着后六時点火 鯖釣ニ從事		流獲物ハ汽船便ニテ鹿兒島市ニ販賣 ス	屋久曾根ニテ旗魚繩ニ從事ス正午荒 天トナリ山川港へ入港ス	前八時全漁場ニテ旗魚繩ニ從事后 二時一湊着	開闢屋久島間海洋觀測ヲ了后八時屋 久曾根ニテ鯖釣ヲナス	荒天休泊	荒天山川休泊	前十一時山川發石油積取ノタメ鹿兒 島へ歸港即日山川着	船底手入谷山泊	漁獲物ノ賣却ヲナス
		前三時半漁場發梅吉曾根ニ旗魚試驗 ノタメ向ヒシモ天候ニ妨ケラレ山川 へ避泊ス								前八時全地發山川ニテ餌料購入漁場 ニ向ヒシモ佐多沖航走中天候險惡ト ナリ引返ス		
		試驗終了山川發鹿兒島着										

## 傳書鳩利用試驗

**趣旨** 本試驗ハ傳書鳩ヲ利用シ漁船ヨリ陸上へ通信連絡ヲ執ラントスルモノニシテ本年ヨリ着手セリ本縣ノ漁業種類中鯉漁ハ漁場廣ク遠キハ直航距離二百數十哩ニ及ヒ一航海四五日ヨリ時期ニ由リテハ十數日ヲ費ヤシ其間通信不能ニシテ歸航時ノ如キ全ク知ルニ由ナシ而シテ漁獲物ハ漁業者自製スルタメ漁獲高及歸港時ヲ豫メ知ルトキハ製造操作ノ準備ヲ爲シ次回出漁ノ計劃ヲ定ムル等利便多キヲ以テ此目的ニヨリ各鯉船ニ傳書鳩ヲ常用シ其他沖合ヨリ事故ノ通信ニ應スル如クセントシ第一着トシテ川邊郡枕崎ニ大正十一年四月鳩舎ヲ建築ニ着手セリ

### 鳩舎

鳩舎構造ハ木造瓦葺平屋建五坪ノモノニシテ陸軍省附屬軍用鳩固定鳩舎ノ様式ニ倣ヒ内部ヲ第一鳩室第二鳩室

ト雛鳩室トニ區劃シ其一部ニ餌料置場主任詰所ヲ設ケタリ第一鳩室ハ一側ニ巢房三段ツ、七列ヲ一側ニ同三段ツ、六列以上計三十九個ノ巢房ヲ造リ第二鳩室ハ左右側ニ巢房三段ツ、三列トシ計十八個ヲ造リ各巢房ハ奥行一尺五寸幅一尺七八寸高一尺トシ前面ヲ竹格子トシ中央ニ鳩出入口ヲ設ケ内部ハ中央ニ隔板ヲ置キ一房雌雄二羽ヲ收容スルモノニシテ第一二室ヲ通シ五十七個ノ巢房ニテ百十四羽ヲ收容ス各側ノ巢房列ノ中間及上部ハ鳩ノ遊翔場トナリ其天井ニ當ルトコロハ總テ金網張トシ其處ニ二列ニ栖止木ヲ設ケ鳩ノ休ミ場トセリ第一二室ノ一側ニハ鳩ノ出入口ヲ設ケ屋外ノ露臺(到着臺)ニ連接ス雛鳩室ハ其一側ニ五十八區劃ヲ爲セル鳩ノ休ミ臺ヲ据付ケ雛鳩五十羽マテヲ收容スル如クセリ各室間ハ下部ハ板張トセルモ上部ハ金網張トシ屋壁ニ當ル周圍ニハ處々ニ開閉シ得ル硝子窓ヲ設ケ採光通風ニ便セリ以上構造ノ概要ハ別紙附圖ニ示セルモ工作ノ主要材料寸法仕様等ハ左ノ如シ

各柱石 切石ニテ底部「コンクリート」高サハ床下三尺ヲ標準トシ床下柱ノ長サニ應シ適宜トス  
柱杉挽立四寸角ヲ削リ仕上グ

床柱堅メ 全 上方立敷居木程度寸法

妻梁及軒桁 杉又ハ松成挽立五寸下合四寸

母屋桁及棟桁束 相當平均四寸以上押角トシ見出シ(外側廻)ハ正角見出トス

床大引 同寸押角及束共モノ

床根太 据口三寸以上二ツ割一尺五寸以内造リ

床板 杉又松八分板傍付敷目板張トス

側目板張 杉六分板棧一寸七八分  
一寸以上

屋根椽 並椽一尺五寸以内造リ廣木舞ハ中貫、破風板ハ大貫、鼻隠シ中貫、軒裏板杉四分板、内部ハ下貫側揃、木

巾以内送り打立

平木膏 足三寸五分

瓦 普通良燒品、碇漆喰施ス

到着臺 板掛 三寸五分  
一寸五六分 前及左右椽共同寸、同根太並椽中貫三四分透ニ張立

外部塗立 上ペンキ青白色三度塗

巢房側及仕切板 杉七分板幅ハ二枚矧程度同裏板ハ同四分板

房室付切方立 等ハ二三寸位、同上桁四寸位ノモノ  
二寸五分

入口戸寸法 普通寸法丈夫ナルモノ各蝶番ハ銅製長二寸五分三丁以上釣付同締リ白玉錠外部ヲ限リ内部ヲ捻合等品

天井及仕切綱 亞鉛線六分目龜甲形ノモノ張立

其他網兩栖止木等圖面參考指揮ニヨル

以上木材ハ見出中鉋削リ程度

鳩舎所用器具及鳩屬品

飲水器 室内ニ置キ任意ニ飲水セシムルモノニシ水ヲ盛リタル細口ヲ有スル筒ヲ倒サニ水盤ニ突キ込ム如ク裝置セ

ルモノニシテ水盤ノ水ノ減スルニ從ヒ自ラ筒ヨリ補充サル、ナリ

鹽土箱 鹽土(公記)ヲ入ル、木函ニシテ中ニ鹽土ヲ入レ左右側ノ板ヲ張ラサルトコロヨリ嘴ヲ入レ啄出セシム

巢皿 抱卵用ノ皿ニシテ石膏製高二寸内周五寸六分内側ヲ灣曲狀トセルモノニテ産卵ノ場合ハ巢房内ニ置キ抱卵セ

シム

水浴器 亞鉛板製ニテ水浴セシムルニ用ユ

篩 金網張ノ篩ニシテ餌篩ト稱シ之ニ餌ヲ入レ之ヲ動カシテ音ヲサセ室外ニ去ル鳩ヲ呼込ムナリ

糞搔 卓圓形鐵製木柄付ノモノニテ室内床上ノ糞土ヲ搔キ取ルニ用フ

信書筒 信書ヲ入ル、挿込ノ筒ニテ「アルミ」製トシ脚室又脚部ニ附ス

足環 鳩ノ番號ヲ附スルハ「アルミ」製トシ鳩室又ハ雌雄ヲ區別スルハ「セルロイト」製卷環トセリ

鳩籠 鳩ノ携帶運搬用ニシテ杞柳製荒目方形ノ籠ニシテ之ニ亞鉛板製飲水器ヲ取付ケ籠ノ種類ハ携帶用ノモノハ二

羽入四羽入ノ二種トシ輸送用ニハ二十羽入等ヲ準備ス

鳩ノ飼育訓練 本試験着手ノ初メニ當リ本場助手一名ヲ中野軍用鳩調査委員事務所ニ三ヶ月間見學セシメ其方法ニ準

據スルコト、セシタメ飼育訓練等モ大体夫レニ則レリ方法左ノ如シ(左ニ記スルモノハ軍用鳩調査委員ノ使鳩飼育ノ要領トシテ發表セルモノヨリ摘記セルモノナリ)

鳩ノ飼方 野性ノ動物ハ自ラ適當ナ飼料ト分量トヲ撰擇シテ誤ラサルノ特性ヲ備フルモ一旦人間ニ飼育セラレ保護

ヲ受クルト此自然ノ特性ハ漸次ニ消滅シテ非常ノ注意ト保護トヲ受ケネハナラヌ様ニナルモノテ傳書鳩ハ己ニ大部



分其自然性ヲ消滅シタモノテアルカラ此保護ヲ怠ルト病鳩ヲ續發スル恐レカアルユヘ常ニ鳩舎内ヲ清潔ニシ傳染病寄生虫ノ發生ヲ豫防シ賊風又ハ氣流ノ發生ヲ防キ感冒並ニ之ヨリ生スル一切ノ病氣ヲ豫防シ飼料ヲ精選シ其分量ト時間ヲ一定シ運動ヲ調節スル如クセネハナラヌ

飼料ハ餘リ種類カ復雜ニナルト鳩カ勝手ニ好キナ物ヲ選フト云フ我儘ヲ出シテ折角與ヘントスル適當ナル分量ヲ確實ニ與ヘルコトノ出來ヌト云フ不利ヲ來スカラ出來ル丈此配合ヲ簡單ニスル工風カ必要テ通常用フルモノハ小蠶豆、豌豆、玉蜀黍其他ニ菜種、玄米ヲアル

鳩一羽ニ對スル一日ノ飼量ハ氣候、年齡、運動ニヨリ異ルモ概ネ小蠶豆、豌豆、玉蜀黍ヲ合セテ八匁乃至十匁位ヲ常ニ鳩ノ肥瘠ニ注意シ加減スヘキハ勿論ヲアル其他毎日玄米ヲ日量ノ百分ノ五菜種ヲ日量ノ百分ノ十苑ヲ與フ主食品ノ割合ハ豆ハ百分ノ七十玉蜀黍百分ノ三十ヲ豆類中小蠶豆ハ百分ノ四十豌豆ハ百分ノ三十ヲ普通トスルモ豆類ノ割合ハ多少變シテ總量カ日量ノ百分ノ七十二達シサヘスレハ宜シイ此外ニ黃土三十七煉瓦末三十七卵殼牡殼灰七、四古石膏七四食鹽十一、二合百ノ割ニ混製セル據土塊ヲ與ヘル之ハ鳩體ニ石灰及據類ヲ供給スルノミテナク同時ニ乾固シタル固體ヲ啄喰セシメテ嘴ノ成長ヲ適度ニシ且胃中咀嚼ノ作用ヲ助ケシムル

飼料ハ朝一〇晝一〇夕一五位ニ三度ニ分チ其運動后ニ與ヘ菜種玄米等ハ朝晝ニノミ與ヘル

前記飼料ノ外飲水器ヲ置キ水ヲ與ヘルカ之ニハ隔日位ニ重曹、硫酸鐵、明礬、沃度丁幾等ノ微量ヲ加ヘテ與フルトキハ一層衛生上ニ效果カアル

鳩ノ訓練 鳩カ其巢ニ歸來スルハ巢ニ對シテ一種ノ愛着心ヲ有スルノテアルカラ先ツ鳩舎ニ鳩ヲ馴ラス必要カアル飛翔スルコトノ出來ヌ雛鳩ヲ新シキ鳩舎ニ馴ラスハ容易ナルカ飛翔ノ力ヲ得ルニ從ツテ此馴ラシ方ニ漸次多クノ日數ヲ要スル約次ニ示ス如キ日數ヲ標準トシ鳩ヲ鳩舎内ニ閉込メ置クノテアル

生后三週間ノ鳩 一日間 同四週間ノ鳩 二日間  
 同 五週間ノ鳩 三日間 同六週間ノ鳩 四日間  
 同 七週間ノ鳩 五日間 同八週間ノ鳩 六日間  
 尙一層年取リタル鳩ハ其日數ヲ増加シナケレハナラヌ此日數ヲ省略シ過早ニ鳩ヲ舎外ニ出スト更ニ其前ノ古巢ニ還ルカ失踪トナル

前ノ期間ヲ經過セハ先ツ日没前ニ鳩ヲ室外ニ出シ放任シテ置ク左スレハ鳩ハ靜ニ到着台上ニテ飛揚ヲ試ミ反覆實施シ確信ヲ得レハ屋根ニ飛上リ若クハ屋根カラ到着臺ニ飛ヒ降り充分ニ鳩舎ノ外部ノ狀態ヲ記憶シ后日鳩舎ヲ離レ飛翔スルモ歸巢ニ迷フ恐レカナイ約一時間位ツ、鳩ヲ遊ハセタ后舎内ニ呼込ミ斯ノ如ク十五日間實施シタル后朝十五分晝十五分夕十五分間ノ隨意飛行ヲ行ハシメ后一週間毎ニ五分間宛増加シ朝一時間晝三十分夕三十分ノ飛行ヲ行ハシムルノテアル

鳩ヲ希望ノ目的ニ使フタソノ訓練ハ短距離ヨリ長距離ニ東西南北ノ四方向ニ運ヒ鳩舎ニ向ツテ放鳩スル特ニ或方向カ必要ナラハ其方向ニ於テハ出來ル丈放鳩位置ヲ延長シ練習ヲ繰返ス放鳩ノ時刻ハ成ルヘク早朝カ宜シイ放鳩スルト空中ニ旋回又ハ半旋回運動ヲ成シテ方向ヲ判定シ一旦判定ヲ終レハ直ニ確定的ニ飛去スルモノテアル (以下略)  
 飼育訓練ノ經過 試験用ノ鳩二回ハ前后ニ陸軍省ヨリ保管轉換ヲ受ケタルモノニシテ

第一回 十年五月 四十羽

第二回 十年十二月 二十羽

第一回ノモノハ同年三月生ノモノニテ五月二十一日東京市外中野鳩舎ヨリ同月二十八日本場附屬枕崎鳩舎ニ收容セリ

自五月廿八日 鳩舎内ニ閉込飼育  
至六月二日

自六月三日 出舍訓練……到着臺上ニ網ヲ張り室内ヨリ臺上マテ出シメ呼込練習ヲナス初回ノ成績ハ朝ハ二十分内ニ至同二十二日  
テ四分ノ三ハ呼込ニ應ジ晝ハ一時間ニテ二分ノ一、夕刻ハ二十分ニテ全部呼込ニ應ジ入舍スル成績ナリシモ練習ヲ重ヌルニ從ヒ短時間トナレリ尙當時ハ降雨頻繁ナルタメ連日練習スルヲ得サリシ

自六月二十三日 出舍飛行訓練……到着臺上ノ張網ヲ撤去シ自由ニ舍外ヲ飛行セシメ之ヲ呼込ム訓練ニシテ初日ハ出舍鳩ノ内二羽ハ後レテ一羽ハ翌々日歸舍セリ七月二日ノ訓練中二羽失踪シ一羽ハ同十五日歸舍セルモ他ノ一羽ハ終ニ歸舍スルニ至ラス同五日ヨリ小群ヲ爲シ飛行シ九日ヨリ全ク集團トナリ飛行スルニ至ル

七月一日 海岸波止場ヨリ放鳩ス全部鳩舎ニ歸ル

八月十二日 始メテ一羽産卵セリ

自八月十六日 陸上東西北ノ三方向ヨリ合計六回放鳩訓練  
至同二十四日

自八月二十八日 海上二十五湍沖以内ニテ五回放鳩訓練爾后モ機會アル毎ニ訓練セリ  
至九月二日

自九月十六日 民間鯉船ノ漁況報告ニ使用ス

第二回ノモノハ十年夏季生レノモノニシテ十二月四日中野鳩舎ヨリ請取リ同八日枕崎鳩舎ニ收容シ第一回ノ如ク出舍訓練、出舍飛行訓練ヲナシ十一月四日ヨリ同二十六日迄ノ間ニ八回陸上放鳩訓練ヲナシ海上訓練ハ鯉漁船ノ使用鳩携帶ノ際訓練ヲ要スル鳩ヲ托送シ指定距離ヨリ放鳩練習セシメタリ

以上第一二回鳩ノ放鳩訓練成績ハ左表ノ如ク陸上放鳩ノ速力ハ一分間二千米突ヲ最大トセルモ海上放鳩ハ四千米突ノ快速ヲ見ルナリ

# 放鳩訓練成績

(大正十年中)

月日	放鳩地点	距離(耗)	方向	天候	風向力	放鳩數	放鳩時	到着時	經過時	方向判定時	一分間速力(米)	記事
八月十六日	東南方村	二	北	晴	北西弱	二	八、〇〇前	八、二四	四	三〇	一、三〇〇	陸上輸送放鳩ス
同	同	二	全	全	全	二	二、一〇	二、二四	四	三〇	一、〇〇〇	
同十七日	鹿籠金山	七	全	曇	北強	二〇	八、〇〇	八、三五	五	二	一、七〇	
同	同	七	全	晴	南東弱	二四	二、一〇	二、四〇	五	一	一、三〇〇	
同二十一日	耳取峠	五	全	晴	南東弱	二四	二、一〇	二、四〇	五	一	一、三〇〇	
同	同	五	全	全	全	二四	二、一〇	二、四〇	五	一	一、三〇〇	
同二十二日	坊ノ津	七	全	全	南弱	二六	二、〇〇	二、三〇	三	二	一、〇〇〇	
同二十三日	白澤津	七	東	晴	南東弱	二〇	二、一〇	二、三〇	一五	二	一、〇〇〇	
同二十四日	知覽村	九、一	全	全	南弱	二二	二、〇〇	二、三〇	一〇	三	一、〇〇〇	
同	松ヶ浦	九、一	全	全	全	二二	二、〇〇	二、三〇	一〇	三	一、〇〇〇	
同二十七日	立浦沖 (海面)	四	南	晴	南弱	二二	二、〇〇	二、三〇	一〇	三	一、〇〇〇	松島丸ニテ放鳩練習ヲ爲ス
同	同	四	全	全	全	二二	二、〇〇	二、三〇	一〇	三	一、〇〇〇	
同二十八日	枕湊	三	全	全	南々西	二六前	八、四〇	八、五〇	五	二	一、〇〇〇	
同二十九日	六湊	三	全	曇	南強	二二	九、一〇	九、三五	一〇	二	一、〇〇〇	
同三十日	十湊	三	全	晴	東弱	二六	二、一〇	二、四〇	三	三	一、一〇〇	
同	全十五湊	三	全	全	全	二五	二、一〇	二、四〇	三	三	一、一〇〇	内二三羽ハ二分遅選セリ
同	同	三	全	全	全	二五	二、一〇	二、四〇	三	三	一、一〇〇	
九月二日	全二十五湊	三	全	全	全	二五	二、一〇	二、四〇	三	三	一、一〇〇	放鳩后降雨アリ方向判定ニ苦 ミ二羽ハ先着十八羽ハ二着ト ナリ二羽ハ六日午前〇時后 六時ニ歸リ一羽ハ二十日夕歸 還一羽失踪トナル
同五日	硫黄島	七	全	全	北東弱	二二	二、一五后	四、五五 五、五五	六、〇〇 五、四〇	三	一、一〇〇	

同九日	同六日	二十一年四月	全二日	十一月一日	同三十一日	同二十七日	同二十五日	同二十二日	同十九日	十月二日	同三十日	同二十七日	同二十日	九月十八日
耳取峠	櫻山	耳取峠	全五十八軒沖	五枕五渾沖	大頭桂川村	鹽屋	板敷	泊	城山	開闢岬沖	海枕岸	坊ノ中間	十湊沖	硫黄島竹島ノ中間
五	〇八	五	五	二〇	三	八	三	七	二	二	一	八	三〇	五
四	北	西	全	南	全	東	全	西		南東	南	西	全	南
全	全	全	全	全	晴	曇	全	全	晴	四	曇	全	全	晴
										北西蔚	北蔚	北西蔚	全	北蔚
11時	11時	11時	11時	10時	11時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	11時
11時	11時	11時	11時	10時	11時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	11時
11時	11時	11時	11時	10時	11時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	10時	11時
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1時10分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分	1時00分
		二羽ハ翌日三時歸舍ス	大正九三号ニテ放鳩ス二羽ハ失踪トナル	琴平丸ニテ放鳩ス						大神丸二号ニテ放鳩ス	病鳩産卵ノタメ練習ノ機會少カリシモノヲ練習セシム	同		新蛭子丸ニテ放鳩

傳書鳩利用試験

年月日	場所	羽数	性別	天候	死亡	失踪	年末現在
十一月十三日	板敷	二	東	晴	三	一〇	六八
全十四日	白澤津	七	東	全	二	八	一七五
全十七日	石額 姪村	一〇	東	全	一八	一〇	鷹害アリ二羽ハ十八日一羽ハ二十日歸舍ス
全二十三日	板敷	三	全	全	一三	一〇	鷹害アリ二羽ハ翌日歸ル
全二十六日	額姪村郡	三	東	曇	一〇	一〇	同五羽ハ翌日歸ル
三月四日	枕崎 南四津	八	南	晴	八	一五	一羽ハ三月一日歸ル
全八日	全	一〇	全	全	一〇	一〇	蛭子丸三号ニテ放鳩ス
全十一日	全	二	全	全	九	九	若蛭子丸ニテ放鳩ス
全十三日	山川港	三	東	雨	二	八	大神丸ニテ放鳩ス 同上時間内ニ四羽歸ル五羽ハ翌日歸リモ他ノ三羽ハ歸ラ ス放鳩舍雨甚シク北強風トナ リシニ由ル上記三羽ノ内一羽 回收ニテ失踪トナル
全二十三日	枕崎 南沖	八	南	雨	一〇	八	蛭子丸ニテ放鳩ス

本年飼育中鳩ノ増減ハ失踪鳩二十羽死鳩三羽ヲ出シ産卵數ハ六十個ニシテ三月末迄ニ得タル雛鳩ハ二十八羽ニシテ年度末現在數ハ左ノ如シ

區別	羽数	性別	死	減	亡	失	天	踪	年度末現在
第一回配布鳩	四〇	雌	一三	二	一	一	一	一	二五
第二回全	二〇	雄	一三	一	一	一	一	一	一四

失踪、死亡、孵化狀況ハ詳細左表ノ如シ

失 踪 鳩

孵 計	化 鳩	二 八	八 八	三	二 〇	二 八	六 五
--------	--------	--------	--------	---	--------	--------	--------

失踪月日	鳩番號	羽色特徴	性名	記	事
十年六月二十三日	九二五	栗 胡 摩	雄	初回ノ出舍飛行訓練ノ際失踪トナル	
七月二十一日	五六五	濃 灰 胡 摩	雄	出舍飛行訓練ノ際失踪トナル	
九月五日	三七六	灰	雄	硫黄島ヨリ放鳩訓練ノ際降雨ニ會シ方向判定ヲ誤リタル際失踪トナル	
十月十六日	二九〇	濃 灰 胡 摩	雌	總船大正九一號ニテ使用セシ際夕刻ニテ日没トナリ方向ヲ失ヒタルタメ失踪トナル	
同	九一四	灰	雌	同	
同	五〇九	曇	雌	同	
同	五二五	灰 胡 摩	雌	同	
同	九二六	同	雄	同	
同	五〇八	同	雄	同	
同	九三二	同	雄	同	
同	七四二	同	雌	同	
十一月二日	一三九二	薄 灰 胡 摩	雄	大正九三號ニ托シ出漁途次訓練ノタメ放鳩セシ際失踪トナル	
同	九二一	濃 灰 胡 摩 白 斑	雄	同	
十二月二十五日	二三一九	灰	雄	出舍飛行訓練ノ際失踪トナル	
同	二六〇八	灰 胡 摩	雄	出舍訓練ノ際鷹ニ襲ハレ失踪トナル	
同			同		

傳書鳩利用試驗

計	同	同	同	同	十二月二十五日	二三五七	灰	雄	同
同	同	同	同	同	十一月十三日	四一五一	同	雄	同
同	同	同	同	同	十一月十三日	一〇〇	同	雄	同
同	同	同	同	同	十一月十三日	六	栗胡摩	?	同
同	同	同	同	同	十一月十三日	一三九八	モザイ	雌	同
同	同	同	同	同	十一月十三日	二〇	イ	雌	同
<p>山川港ヨリ放鳩馴練ノ際雨トナリ失踪トナル</p>									

死 鳩

發病月日	死亡月日	鳩番号	羽色特徴	性別	記	事
六月十日	全 十九日	四四七	灰胡摩	雄	シユケ病	
同 二十日	全 二十五日	九二九	栗胡摩	雌	同	
同 二十二日	九月四日	八一二	灰胡摩	雄	センレツシユ病	
計	三羽					

此外本年中ニ起リシ病鳩ハ「ラトル」一「シユケ」一脚病一管接病一計四羽ヲ生シ鷹ニヨリ負傷セシモノ三羽アリシ  
モ治療シ快癒セシメタリ

産卵孵化狀況

月別	産卵數	孵化中	孵化數	死孵化后	幼鳩累計	記	事
九月	四	破損 腐敗	一	三	三		



計	三月	二月	一月	十二月	十一月	十月
六〇	一四	一四	六	八	六	八
三	二			一	一	
一二	三	一	四	二	一	
三四	九	二	八		四	八
六	二		一	三		
二八	二八	二一	一九	一二	一五	一一
卯十一個ハ翌月ニ越ス						

漁船使用成績

前項放鳩訓練狀況ニ見ル如ク陸上及海上ヨリ快速力ニテ鳩舎ニ歸來スルニ至レルヲ以テ第一回收容ノ鳩ハ九月以降鳩舎所在地ノ鯉漁船ニ使用セシムルコト、シ初回ハ飼鳩者便乘携帶シテ使用シ同時ニ其方法ヲ船員ニ習得セシメ同船ノ二回目ヨリハ其船員ヲシテ使用セシメタリ

漁船ニ於ケル鳩ノ使用ハ每航歸港時ト漁獲報告ヲ主トシ本船歸着前ニ鳩舎ニ報シ鳩舎ヨリ其所屬船主ニ通報シ製造臨時夫ノ雇入其他ノ準備ヲナシ次回出漁計劃ニ便セントスルニ在リテ之ヲ余リニ遠距離ヨリ爲ストキハ本船歸着時正確ヲ失スルコトアリ且初期使用ノ鳩トシテハ短距離ヨリ爲ス方飛行確實ナルヲ以テ本船歸着二三時間前ニ通報ヲ得ルヲ目的トシ鳩舎ノ南方海上三十湊位ノトコロヨリ放鳩セシムルコトニ定メ其他事故報告ハ隨所ヨリ爲スコト、セリ

漁船ニ携帶スル鳩ハ初三回ハ五羽乃至十羽ツ、トシ團體放鳩セシメタルモ其成績ニヨレハ左程ノ必要ナク且使方希望船増加ノタメ後ハ三羽ニ減シ最終ニハ二羽宛トシ鳩籠ニ入レタルマ、甲板上ニ積ミ毎日餌料ヲ與ヘ使用ノ場合ハ通信文ヲ認メタル用紙ヲ細ク巻キ脚部ニ附セル通信筒ニ收メ籠ノ戸ヲ開ケハ一羽ツ、飛出シ一應上空ニ飛翔シ旋回シテ方向ヲ定メ直線ニ鳩舎ニ向ツテ飛行歸來スルナリ

本年使用ノ成績ハ次表ノ如ク九月ヨリ三月迄ト通計十五回ニシテ内三回ハ使用ノ機會ヲ失シ四回ハ放鳩時不適當ナリシタメ故障ヲ生シ鳩ノ歸來ハ本船着后トナリ他ノ八回ハ本船ヨリモ三十分乃至三時間余モ早ク歸來シ當該船ハ著ルシク便益ヲ感セリ從ツテ同地各船ハ其効果ヲ認メ競フテ每航攜帶出漁スルニ至リ爲ニ本場ハ同地鯉船四十隻ノ全部ニ使由セシムルニハ鳩數ノ不足ヲ生シ一面ニハ蕃殖ニカムルノ要ヲ生セリ本年九月十月ニ使用少カリシハ鯉不漁ノタメ出漁船少ク十一月ヨリ一月ハ全ク出漁船ナク二月ハ鯉漁季ノ始マリニテ出漁船少カリシニ由ルナリ

### 鯉漁船使鳩成績

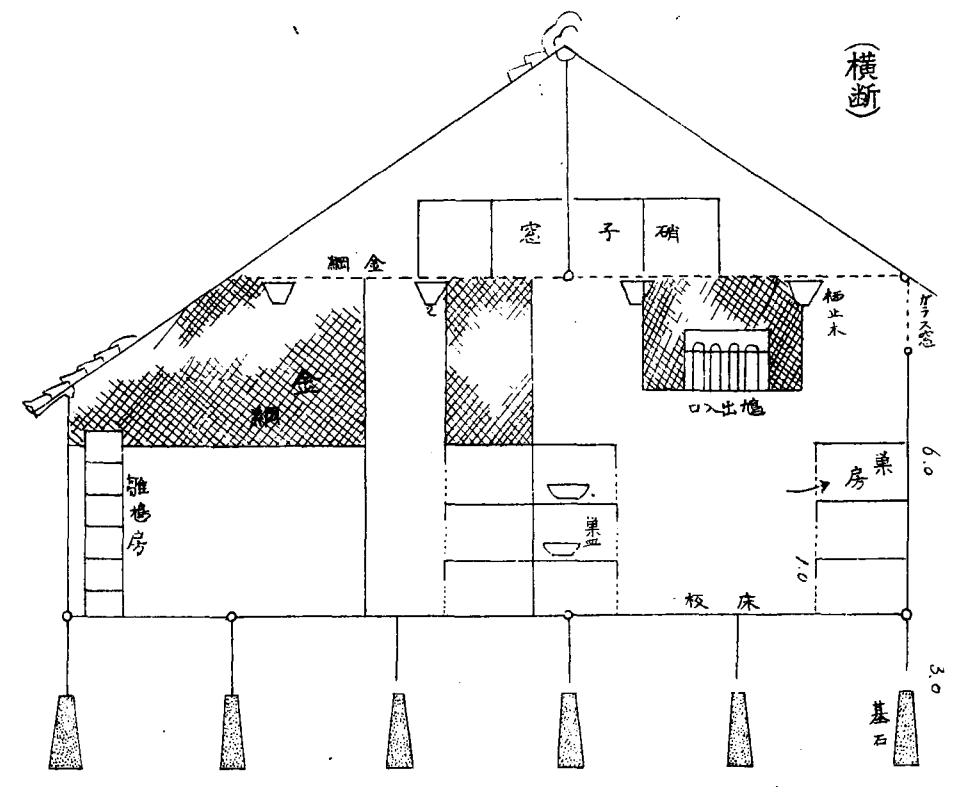
大正十年

回	船名	鳩積込月日	羽數	放鳩日時	放鳩位置 鳩舎距離	歸舍日時	時過經 (速力)	本船 比較	事
一	新蛭子丸	九月十六日	五十八日 廿日前	三、三〇 六、〇〇	硫黃島附近 湊	十九日前 二十日	四、三〇 一、〇〇	本船ヨリ 後	十八日ハ出漁報告チナス 歸港報告ハ後ル
二	大神丸二號	十月一日	一〇二日 后	二、〇〇	開闢神 湊	二日 后	三、一〇 三、五〇	本船ヨリ 一時早シ	天候不長出漁中止ノ報告チ爲ス 放鳩日没ニ入り方向ヲ失ヒ十八日 踪トナレ
三	大正丸一號	全六日	九十日 六后	五、〇〇	黒島附近 湊	十八日 二十日	三、〇〇 四、六〇		出漁期永ク鳩疲勞セルヲ以テ歸港后 放鳩ス
四	大神丸二號	全三日	三十四日 后	六、〇〇	枕崎港内	十四日 后	五		漁獲報告チナス
五	蛭子丸五號	十一月 十五日	三三月 六日前	八、〇〇	枕崎 湊	六日 前	二、〇〇 三、〇〇	一時早着	漁獲報告チナス
六	傘丸一號	全廿三日	三十九日 前	七、〇〇	同二十九 湊	十九日 前	三、三〇 三、三〇	三時全	二五〇〇尾漁獲報告チナス
七	蛭子丸	三月十五日	三四月 三日前	四、一〇	同五 湊	三日 前	五、一〇 三十分全		六〇〇尾漁獲報告チナス但シ未明ニシ テ南東強風ノタメ一羽ハ后レテ五日 歸ル
八	蛭子丸三號		三						夜間入港ノタメ放鳩セス

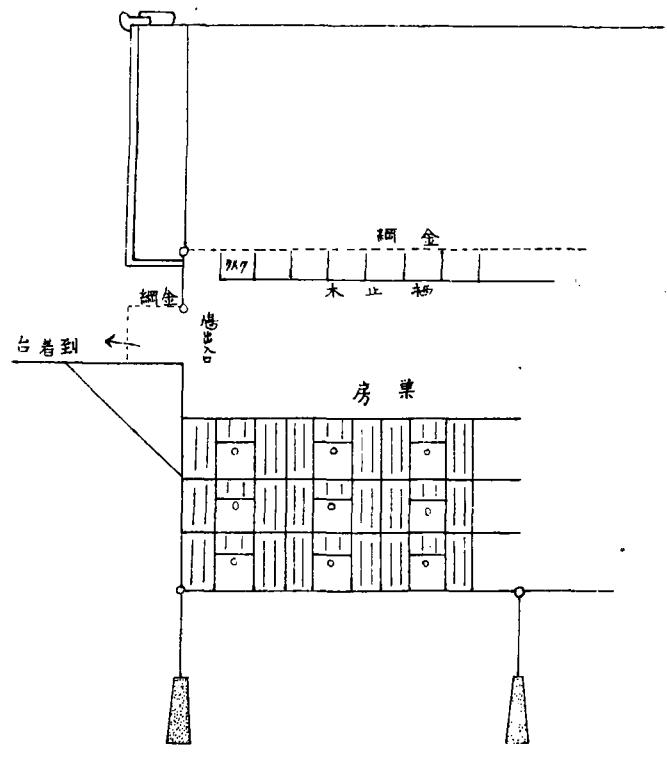
# 鳩舎圖

川邊郡枕崎所在  
 數字ハ尺寸〇ハ主材ヲ示ス  
 約四十分ノ一縮尺

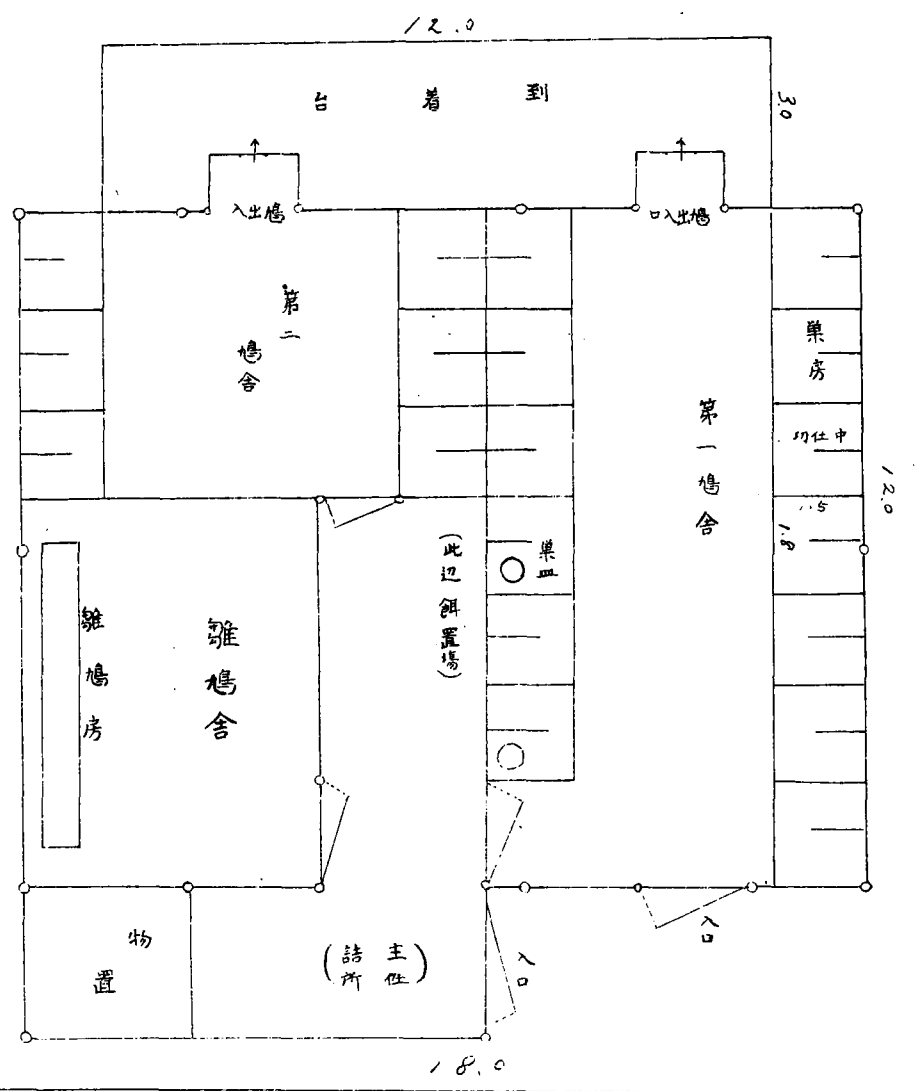
(横断)



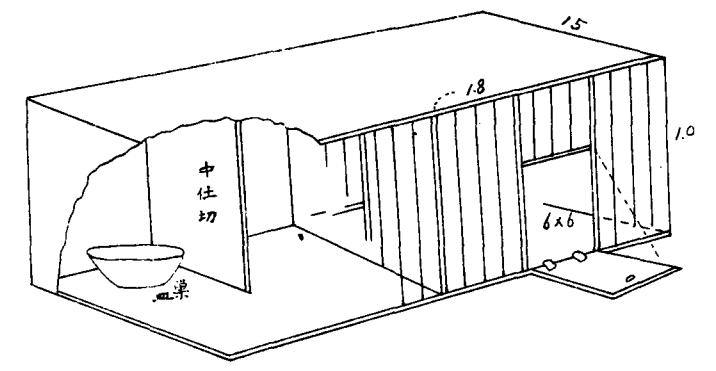
(側面内部)



(平面)



(菜房)



九	歌漁丸	三月廿五日	三月廿二日	二〇〇	全二十七哩	二日前	二・一〇	一・一〇	九六三	二時五十分	三九〇尾流獲報告チナス	
一〇	南薩丸五號	全廿七日	三月廿三日	九二〇	全二十一哩	三日前	一〇・〇〇	〇〇・〇〇	〇〇〇〇	二時半	着	一〇〇尾流獲報告チナス一羽ハ后レテ八日歸ル
一一	千代丸	全二八日	三月廿三日	五〇〇	全六哩	四日後	一〇〇	一〇・〇〇	一〇六	一時	全	放鳩后日没トナリ方向ヲ失シ一羽翌日一時歸リ二羽失踪トナル
一二	傘丸三號	全二九日	三月廿七日	七〇〇	全十二哩	七日前	七・〇〇	〇〇・〇〇	八〇〇	一時	全	一羽歸リ一四〇〇尾ノ流獲報告チナス二羽ハ失踪トナル
一三	天智丸	全二九日	三月廿七日	八〇〇	全廿四哩	七日前	八・五〇	〇〇・〇〇	六〇六	三時十分	全	五〇〇尾流獲報告チナス
一四	傘丸二號	全三〇日	三月廿七日	三〇〇	全卅三哩	九日朝						一羽九日朝歸リ一羽ハ失踪セシモ屋久島ニテ捕獲歸還ス
一五	幸清丸	全三〇日	三月廿七日	二								四月七日未明歸港セル

本年ノ試験中經驗セル二三ノ事項ヲ附記スヘシ

鳩舎ノ位置枕崎俱樂部庭内ニシテ海面上約二十尺ノ高所ナルモ周圍ハ人家櫛比シ電燈電話線ノ架設アリ又鳩舎ニ近ク暴風信號標及其「ステート」アリ舎后ニハ時報臺アルタメ始メ此地ニ鳩舎ヲ設クルコトハ多少ノ疑懼アリシモ管理ト鯉船ノ連絡等ニ便ナルタメ強テ建築セルモノニシテ爲メニ初期ノ訓練ニハ支障ヲ感セルモ稍ヤ訓練スルニ從ヒテハ何等ノ支障ヲ見ス又鳩舎ノ出入口ヲ周圍建物ノ關係ヨリシテ海面ニ直向セス西向トセルコトモ別ニ影響ヲ見サリシハ試験進行上好都合ナリシ

鳩ノ成育 當地方ノ氣候ハ夏季ノ炎夏季ニ在リテハ室内通風ヲ良好ナラシムルノ要アルモ其他ハ溫暖ナルタメ成長良好ニシテ繁殖ニ就テモ他地方ニ於ケル如ク配合前長期間雌雄ヲ分離シ置クノ要ナリ其時期モ一定セサル如シ

### 放鳩時

本年訓練シタル鳩ハ海陸何レヨリスルモ快晴ノ午前中ニ爲セル場合ハ百發百中ノ好果ヲ得タルモ放鳩后日

没トナリ降雨トナリテ山影ヲ失セルトキノ如キ方向判定ヲ誤リ又甚シキ降雨トナリ羽毛温潤セルトキノ如キモ不成績ナリシ其ハ放鳩者ノ經驗乏シカリシニ由ルノ外初メ艦船ノ放鳩位置ヲ鳩舎南方三十哩以内ノ海上トセシタメ艦船歸航時ノ關係上日没ニ近キモ強テ放鳩セシ爲メ不成績トナリシモノニテ之等ハ豫メ其時間ヲ想像シ如上ノ場合ハ時間ヲ繰上ケ遠距離ヨリ爲ストセハ改善シ得ラルヘク唯放鳩后雨ノ來ル如キ豫知シ得ラレサル支障ニ就テハ止ムヲ得サルコトナリ

鳩ノ能力 多數ノ鳩中ニ性質ノ銳鈍アリ飼育者ハ之ヲ區別シ得ルモ本年ハ鳩數少ク且蕃殖ノ必要アルヲ以テ低能鳩モ淘汰スルヲ得ス混用セシタメ一部失踪ヲ見タル例アリ一度失踪后歸舎シ再ヒ失踪スル如キハ全ク低能ナルモノニシテ之等ハ全數ノ増加ニ從ヒ淘汰スルヲ可トスルナリ

鷹害 鳩ニ對スル鷹ノ威力ハ偉大ニシテ出舍訓練ニ際シ鳩ノ舉動ニ異常ヲ見ル如キハ多クハ附近何レカニ鷹ノ來襲セルニ由ルナリ本年鷹害ヲ受クタルハ十月ヨリ二月迄ノ間ナリ秋季鷹渡リト稱スル群來アルハ從來知ラル、トコロナルカ其害力極メテ猛烈ナルユヘ數ノ多少ニ拘ハラス警戒ヲ要スルナリ其方法ハ威銃ヲ用フルヲ可トスヘク鷹ハ保護鳥トナレルヲ以テ本年末本場ハ特ニ驅除ノ許可ヲ受ケ之ヲ使用スルコト、セリ

# 製造部

## 鯉節製造試驗

**趣旨** 本試驗場ハ縣產鯉節ノ改良ヲ促スヲ目的トシ既往試驗ノ結果ニ由ル指導漸ク普及シ製造場ノ改築器具ノ改善其他ノ設備稍ヤ完備シ特ニ試驗地枕崎ニ於ケル製造場ハ殆ント改築セラレタルタメ他縣製造場ノ範タラントスルノ觀アリ製造亦之ニ伴ヒ昔日ノ面目ヲ改メ品質上ニ及ホシタル影響モ大ニシテ各縣鯉節商チシテ均シク從來品ノ欠陥タリシ火膨腐敗節等ヲ一掃シタルニ奇異ノ眼ヲ以テ目セシムルニ至レリ然レモスレハ外形ニ重キヲ置キ内容品質ノ改善ノ注意ヲ粗ニシ節本來ノ特性ヲ失ハシムルノ感アリテ外容實質兼備ノ良品ヲ作出スルコト極メテ必要ナリ

本年ノ試驗ハ(一)節製造ノ研究的試驗トシテ削仕上ヲ加ヘタルモノト荒節ノ儘仕上タルモノトノ品質其他ニ及ホス比較試驗(二)既試驗ニ由リ認メラレタル改良製造ニ由ル節ノ製造ニ付當業者トノ共同製造ヲ爲シ此間男女生徒ヲ收容シ實技ノ傳習ヲ爲セリ

### 一、削仕上ト荒節仕上ノ比較成績

近時食糧問題ノ講究ハ一般ニ注意セラレ、トコロニシテ其供給ヲ増加シ生産費ヲ減スルノ必要ヨリセハ鯉節製造ニ於テ削リヲ爲スコトハ從來必要視セル工程ナルモ寧ロ實質ニ重キヲ置キ全然之ヲ省キ或ハ之ヲ爲スモ其程度ヲ簡ニシ得ルニ非サルカ夫等研究的資料ヲ得ル目的ニテ大正十年九月川邊郡枕崎本場附屬製造所ニテ試驗ニ着手セリ

**方法** 九月二十七日体量一貫四百匁乃至二貫匁ノ大鯉二十五尾ヲ材料トシ各尾ノ前卸半身ト後卸半身ヲ區別シ煮熟



一七	一、五八〇	一、三三〇	五〇〇	五〇〇	二五〇	三〇〇	六〇〇	二六〇	三〇〇	合	一、五八〇	合	一、七三〇
一八	一、五〇〇	一、三〇〇	五〇〇	五〇〇	二八〇	二四〇	二九〇	二四〇	二八〇	合	一、五〇〇	合	一、七〇〇
一九	一、五〇〇	一、三〇〇	五〇〇	五七〇	二〇〇	二〇〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、五〇〇	合	一、七〇〇
二〇	一、七〇〇	一、四〇〇	六〇〇	六〇〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、七〇〇	合	一、九〇〇
二一	一、四〇〇	一、一〇〇	六〇〇	六〇〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、四〇〇	合	一、六〇〇
二二	一、四〇〇	一、一〇〇	五〇〇	五〇〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、四〇〇	合	一、六〇〇
二三	一、六〇〇	一、三〇〇	五〇〇	五〇〇	二九〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、六〇〇	合	一、八〇〇
二四	一、六〇〇	一、三〇〇	五〇〇	五〇〇	二七〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、六〇〇	合	一、八〇〇
二五	一、八〇〇	一、五〇〇	六〇〇	六〇〇	二九〇	二六〇	二六〇	二六〇	二六〇	合	一、八〇〇	合	二、〇〇〇
合計	四、五〇〇	三、六〇〇	二、二七〇	二、二七〇	六、七七〇	六、七七〇	六、七七〇	六、七七〇	六、七七〇	前卸節 合	四、〇〇〇	后卸節 合	四、六〇〇

前卸節ノ削リヲ爲シタルモノハ削リ粉ハ百匁ノ副産アリ

成績 削仕上節ト無削節ノ製産比較ハ前表ノ如ク削仕上ノモノ四貫三十九匁無削ノモノ四貫六百九十九匁ニシテ差

引六百六十匁ヲ増加シ一割六分ニ當レリ當時ノ節價百七十圓トシ計算セハ削仕上節ハ左ノ如ク

金六十八圓六十六錢 本仕上節四貫三十九匁代(十貫百七十圓ノ割)

金二圓四十錢 削粉八百匁代(百匁三十錢ノ割)

計七十一圓六錢 收入總高

内 金二圓二十二錢 削リ工(賃十貫四圓ノ割)

差引六十八圓八十四錢

即チ無削リ節四貫六百九十九匁ハ六十八圓八十四錢ニ相當スルモノニシテ十貫價百四十六圓ノ割合トナルモノナリ即

チ十貫價二十四圓タケ割安ニ賣却シ得ルコト、ナル



今回ノ製品ハ東京ノ信用アル商店ニ托シ賣却セルモ荒節仕上ノモノハ販賣ノ經驗ナク且ツ其數量少クシテ特ニ大宣傳ヲ爲シテ賣出ス丈ニ至ラザリシタメ先方ノ問合ニヨリ本場ヨリ一割三分安ノ指値ヲ爲シ賣却シ削仕上節三貫二十匁代四十五圓三十錢荒節仕上節三貫五百十五匁代四十四圓八十二錢計九十圓十二錢ヲ收入セリ而シテ荒節仕上ノモノニ對スル東京取扱商店ノ批評ハ

御送品中荒節販賣ノ件ハ目下弊店ニ於テモ研究中ニテ適確ナル事ハ申上兼候得共從來ノ經驗上ヨリ申述フレハ仕上節トハ到底比較ニナラズ味ノ點ヲ主トシテ申セハ無削節ハ吸物ノ出シトセハ濁リヲ生シ煮物ニ用フレハ油臭ク外形ノ餘リ宜シカラス候爲メ客受惡シク商品トシテノ立場ヨリセハ値段ニ於テ非常ノ差アリ右ノ欠點モ補ハル、位ナレハ多少ノ賣行ヲ見ルコトモ出來候ハンモ一割五分ヤ二割位ノ差ニテハ目下ノ處望ミナキ様ニ思ハレ候何レ研究ノ上詳細回報スル砌リモ有之カト存セラレ候云々

而シテ東京水産講習所技師山本祥吉氏ニ調査批評ヲ求メタルニ左ノ如ク通報ヲ得タリ

(イ) 普通製節ハ其ノ仕上リ却テ不良ニテ總肉質外見成分ハ荒節仕上物ノ其等ニ劣ルヲ觀ル依テ拙ナル仕上方法ヲ施スヨリモ荒節仕上ノ方好果ヲ得ラル、モノナルコトヲ窺知セリ但シ之ハ御縣産ノ如キ魚質ニ就テノミ云ハル、モノナルヘシ

(ロ) 普通製節形狀正シク良乾燥適度肉締良嫩付効果中等傷内外ニアルモ荒節仕上ノモノヨリ其大サ小ナリ肉ハ上枯狀ヲ爲サズ節ノ折方不良ナリ但シ雌節ハ良シ肉ニ粘質乏シ肉色肉香良キ方本地枯節比較的多シ肉ノ光澤色香味ハ荒節仕上ノモノニ優ル節トシテハ味力薄弱ナリ此カ煮出汁ハ色淡ク香氣中等以下惡臭少シ味力弱シ酸味少ク醬油ニ對スル調味力ハ中等以下概シテ旨味ト濃厚味ニ乏シ但シ三陸普通節ヨリ遙カニ優ル風味ニ氣品乏シ

(ハ) 荒節仕上節 形狀正シ外見ハ能ク乾キタル狀態ヲナス削裝ナキ故不美ナルモ何物カヲ以テ包裝セバ左程醜キ商品

ニハアラザルベシ此程度ノ乾燥度ニテ相當保存力ヲ有スルヲ以テ節ノ内部ヲ充實シテ光澤良ク仕上グレバ相當ノ商  
品價值アルベシト思ワル但シ斯如ク仕上グルハ困難カト思惟セラル雌雄節共ニ内部ニ大ナル肉割一二小ナルモノ三  
四アリサレト雌節ノ方大サ小ナリ全クナキモノ一本アリキ肉締ハ普通製ヨリ遙カニ不良但シ雌節ノ方肉締リ雄節ニ  
優ル本地枯節比較的少シ内部肉ノ光澤ハ普通製ニ劣ル肉色モ亦然リ折方ハ不良ニシテ内部ハ全ク木枯狀ヲ爲サハル  
モノアリサレト相當ノ枯方ヲナセルモアリ一般ニ七分枯ノ狀態ヲナス棚卸當時ヨリ肉質ノ良化セル形跡少シ削リ肉  
片ノ香氣乏シ普通製ノ香ニ劣リ中ニハ惡臭ヲ相當ニ放ツモノアリ節質軟クシテ脆シ旨味相當アルモ本枯節ノ味ニア  
ラズ

之ガ煮出汁ハ色極メテ淡シ香氣比較的良シ惡臭アルモ少シ煮干鰯製ノ強キ旨味アルモ氣品ニ乏シ酸味稍々強シ醬油  
ニ對スル調味力ハ相當ニ有リ

分 拆 表 (百分中)

種 類	水 分	全 窒 素	粗 脂 肪	ア ミ ノ 窒 素
普 通 製 節	一六、一二三	一一、六〇〇	四、九一〇	五、九五九(煮出汁中)
荒 節 仕 上 節	二六、六〇ハ	一〇、八〇〇	三、八〇〇	六、一三三(全)

荒節仕上節ノ水分多キハ是ハ實際ノ含有水分ニアラズシテ他ノ肉ノ分解揮發性物質ノ多キヲ示スモノナリサレトモ  
荒節狀態ニテハ普通狀態ノ如キ迄ニ乾燥スルコト困難ナルコトヲ知ルヲ得其ノ他ノ物質ニ大差ナキハ御縣下節ハ肉  
締リ速カナル爲メ兩者共ニ肉變化ノ度或ル程度迄ニ至リ停止シ夫以上進化難キニヨルナラント良質ノ節ニハ概シテ  
「アミノ窒素」ノ含有量多キモノナルガ大差ナキハ普通製節ノ脂肪却テ多量ナルコト、共ニ此面ノ試験品ニ於テ普

通製節ノ仕上リ不良ナルコトヲ證スルモノナルヘシ

斯ノ如ク兩者ノ間ニハ外見ニ大差アルモ肉質ニハ差少キヲ以テ内容充實セル荒節仕上節ヲ製造シ得ラル、ナレバ之ニテモ實用ニ供セラルヘシ而シテ乾燥ニ注意セバ如斯荒節ハ製シ得ラル、ナラン又御縣下ノ普通本枯節ト此度ノ荒仕上節トハ其ノ品質實力ニ差少キヲ認メタリ兩者共ニ煮熟溫度ヲ低ク目トナシ焙乾ヲ今少シ漸乾法ニヨリタランニハ風味ニ一段ノ好果ヲ得ラルベシ普通製節ガ臺灣産燒津再製節ノ肉質ニ似ル點相當アルハ注目ノ價值アリ

## 二、鯉節共同製造試験

本試験ハ静岡高知地方ノ製造方法ノ長所ト既往試験ニテ認メタル方法ヲ參酌セル改良節ノ製産ヲ發達セシメントシ從前ヨリ繼續施行セルモノニシテ十年四月一日ヨリ十月三十日迄枕崎本場附屬製造場ニ於テ枕崎鯉船組合ト共同施行セリ而シテ從來本縣ノ漁獲鯉ノ處理ハ氷藏法行ハレス沖煮ヲ爲シ歸港スル場合アリテ製品原料ヲ得ルニ困難アリシモ本年同地ニ製氷會社設立サレ氷藏運搬普及シ總テ沖煮ヲ廢シ陸上製造ニ變リタルヲ以テ共同製造試験モ成ルヘク多量ノ製産ヲ爲シ節製造事業者ヲ出スノ動機ヲ作ラントシ静岡縣燒津町製造家村松善八外二名ヲモ參加セシノ多量製造ニ重キヲ置キ着手セリ

製造經過成績 本年ノ鯉漁ハ四五ノ兩月最モ豊漁ニシテ魚價モ安價ナリシモ六月以降不漁トナリ七八兩月甚シク九月秋漁ニ入り稍復活セルモ六月以降魚價漸次高騰シ九月ニ入ルモ全國ニ亘ル不漁ノタメ更ニ低落ヲ見サリシヲ以テ製造ハ四五兩月多量ニシテ其大部分ハ荒節ノ儘移出シ六月以降ノ製品ハ仕上品トナシ販賣セリ期間中ノ製造回数ハ八十回ニシテ供用原料一万六千十四貫ニテ製品ハ方節三千七百四十七貫仕上節百九十一貫ヲ得タリ

荒節ノ移出先ハ燒津町ニテ同地ニテ仕上ケ各地ニ販賣セラレ仕上節ハ東京大阪名古屋市ニ賣却シ初季東京送り本節十

貫二百圓手取り龜節三番徴付ノモノ百四十圓手取ニ賣却シ季ノ後レタルモノハ商況沈衰ノ時期ニ入り其影響ヲ受ケタルモ販賣店ノ批評ハ他地方産ノ優良品ニ比シ遜色ナク好評ヲ以テ迎ヘラレタリ  
 本年度ノ收支決算左ノ如シ

收 入

一金三万二千九百六十九圓六十六錢

内 譯

金二万九千三百八十一圓拾一錢

荒本節三千六百八十五貫代

金四百六十圓二十六錢

荒龜節六十二貫代

金二千二百六十九圓十錢

本節百五十一貫代

金壹百五圓

傷本節十貫代

金三百八十六圓

龜節三十貫代

金三百六十八圓十五錢

副產物代

支 出

一金三万九千九百四十八圓九十六錢

内 譯

金三万九千九百四十八圓九十六錢

生鱧一万六千十四貫四百八代

金二十九圓六十二錢

通信運搬費

金十圓

備 品 費